



平成27年度

全国体力・運動能力、運動習慣等調査



【恵庭市における調査結果（報告）】

中学校

平成28年 3月
恵庭市教育委員会



◆ 目 次 ◆

1. 調査の概要	P1
2. 用語の解説と説明	P2
3. 調査結果の掲載方法	P3
4. 北海道の調査結果について	P3
5. 実技の結果	P4・5
6. 体格と肥満度に関する調査結果	P6・7
7. 児童生徒質問用紙調査の結果	P8～
8. 学校質問紙調査の結果	P20～



平成27年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

【恵庭市における調査結果の状況・中学校版】

1 調査の概要

① 調査の目的

子どもの体力が低下している状況に鑑み、国が全国的な子どもの体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子どもの体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

恵庭市が全国、全道的な状況との関係において自らの子どもの体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子どもの体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。なお、今年度も前年度同様、全学校を対象として調査を実施する。

学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

② 調査の対象学年

・小学校第5学年

・中学校第2学年

③ 調査の内容

I. 児童・生徒に対する調査

ア 実技に関する調査（以下「実技調査」という。）測定方法等は新体力テストの方法による

〔小学校8種目〕

握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅跳び、ソフトボール投げ

〔中学校8種目〕

握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走または20mシャトルラン、50m走、立ち幅跳び、ハンドボール投げ

イ 質問紙調査

運動習慣、生活習慣、食習慣等に関する質問紙調査（以下「児童生徒質問紙調査」）

II. 学校に対する質問紙調査

学校における体育、保健体育の指導及び特別活動等に関する質問紙調査（以下「学校質問紙調査」）

④ 調査期間

平成27年4月から7月末までの期間で実施

⑤ 参加状況（調査を受けた学校数、児童生徒数）

	小学校		中学校	
	学校数	児童数	学校数	生徒数
恵庭市	8校	633人	5校	666人
全国	20,259校	1,069,520人	10,027校	1,060,733人
全道	1,088校	42,052人	633校	44,202人

2 用語の解説と説明

体力テスト種目	単位	体力要素	測定
① 握力	kg	筋力	左右握力の平均値
② 上体起こし	回	筋パワー・筋持久力	30秒間に上体を起こした回数
③ 長座体前屈	cm	柔軟性	長座位で前屈したときの両手の前方への移動距離
④ 反復横とび	点	敏捷性	20秒間に両脚で左右側方に反復跳躍した回数
⑤-1 持久走	秒	全身持久力・長距離走能力	男子1500m, 女子1000mの走行時間
⑤-2 20mシャトルラン	回	全身持久力	20m走行の折り返し回数
⑥ 50m走	秒	疾走能力	50mの疾走時間
⑦ 立ち幅とび	cm	筋パワー・跳躍能力	両脚で前方へ跳躍した直線距離
⑧ ソフトボール投げ	m	巧緻性・投球能力	ソフトボールを遠投した距離
体力合計点	点	8種目の体力テスト成績を1点から10点に得点化して総和した体力テスト合計得点。	
総合評価	5段階	8種目の体力テストをすべて実施した場合、体力テスト合計得点の良い方からABCDEの5段階で評定した体力の総合評価。	

用語	解説
標本数	平均値、標準偏差、T得点を算出した人数。
平均値	調査結果（テスト成績）の算術平均値で集団の尺度上の位置を示す。 「平均値＝調査結果の総和/標本数」
標準偏差	調査結果の個人差の大きさを示す。平均値±標準偏差の範囲内に全体の68%が入る。 平均値±標準偏差の3倍の範囲内にほぼ全体が入る。 「標準偏差＝分散の平方根、分散＝偏差平方和/(標本数-1)、 偏差平方和＝偏差の平方の総和、偏差＝調査結果-平均値」
T得点	全国平均値に対する相対的な位置を示し、単位や標準偏差が異なる調査結果を比較する。 平均値50点、標準偏差10点の標準得点。 「T得点＝50+10×(調査結果-平均値)/標準偏差」

※公立校の全国・都道府県の値は、公立校を対象としたものです。

※国立校および私立校の全国の値は、国立・公立・私立校を対象とし、都道府県の値は表示されません。

【標準体重と肥満度判定】

「児童・生徒の健康診断マニュアル（改訂版）」より

平成18年3月31日発行 財団法人日本学校保健会

$\text{標準体重} = a \times \text{身長 (cm)} - b$ $\text{肥満度 (\%)} = \{ \text{自分の体重 (kg)} - \text{標準体重 (kg)} \} \div \text{標準体重 (kg)} \times 100$

■標準体重を求める係数

年齢	男子		女子	
	a	b	a	b
12 (中1)	0.783	75.642	0.796	76.934
13 (中2)	0.815	81.348	0.655	54.234
14 (中3)	0.832	83.695	0.594	43.264

■判定基準

肥満度	判定
50%以上	高度肥満
30 ~ 49.9%	中等度肥満
20 ~ 29.9%	軽度肥満
-19.9 ~ 19.9%	正常
-29.9 ~ -20%	やせ
-30%以下	高度やせ

3 調査結果の掲載方法

全道・全国平均正答率との比較として、「記号」や「文言」で表します。

1. 「cm・m・kg・回・点・秒」の比較、表示方法

	ポイント差	文言	記号
	+5以上	上回る	△
	+0.1から +4.9以内	やや上回る	◇
	0から-1以内	ほぼ同程度	≒
	-1.1から -4.9以内	やや下回る	◆
	-5以下	下回る	▼

2. 「%」の比較、表示方法

	ポイント差	文言	記号
	+10%以上	上回る	△
	+0.1%から +9.9%以内	やや上回る	◇
	0%から-2%以内	ほぼ同程度	≒
	-2.1%から -9.9%以内	やや下回る	◆
	-10%以下	下回る	▼

恵庭市における「実技の結果・体格と肥満度に関する調査結果・児童生徒質問用紙調査の結果・学校質問紙調査の結果」の実際の結果平均数値については、他市町村等との単純比較や序列化などに結びつき、調査の目的を損ないかねないとの考えから、公表しません。
同様の理由により、市内小・中学校ごとの結果数値についても公表しません。

4 北海道の調査結果について

北海道教育委員会としての調査結果報告書については、下記のアドレスから、PDF形式でダウンロードすることができます。

北海道（公立）における調査結果報告書

➡ <http://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ktk/H27tairyokutyousapoint.htm>



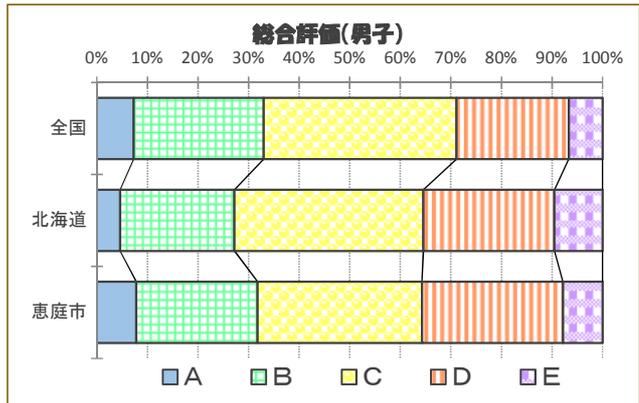
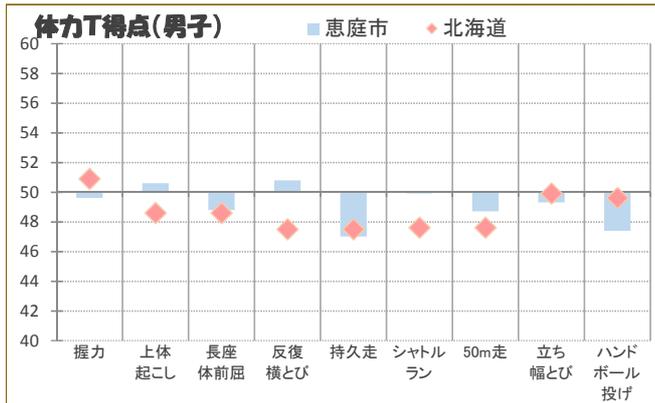
5 実技の結果

<中学校男子>

●全国平均と比較して「上体起こし・反復横とび」は、やや上回っており、「握力・20mシャトルラン・50m走」は、ほぼ同程度である。

●全道平均と比較して「20mシャトルラン」は、上回り「上体起こし・長座体前屈・反復横とび」は、やや上回っている。「握力・50m走」は、ほぼ同程度である。

中学校 (男子)	全国	北海道	恵庭市 (全国と比較)	恵庭市 (全道と比較)	中学校 (男子)	全国	北海道	恵庭市 (全国と比較)	恵庭市 (全道と比較)
握力 (kg)	28.93	29.59	≒	≒	ハンドボール投げ (m)	20.65	20.44	◆	◆
上体起こし (回)	27.43	26.55	◇	◇	体力合計点 (点)	41.89	40.10	≒	◇
長座体前屈 (cm)	43.08	41.62	◆	◇	総合評価 (%)	A	7.3%	◇	◇
反復横とび (点)	51.62	49.66	◇	◇		B	25.7%	≒	◇
持久走 (秒)	392.63	408.33	▼	◆		C	38.1%	◆	◆
20mシャトルラン (回)	85.56	79.77	≒	△		D	22.2%	◇	◇
50m走 (秒)	8.01	8.21	≒	≒		E	6.7%	◇	≒
立ち幅とび (cm)	194.05	193.75	◆	◆					

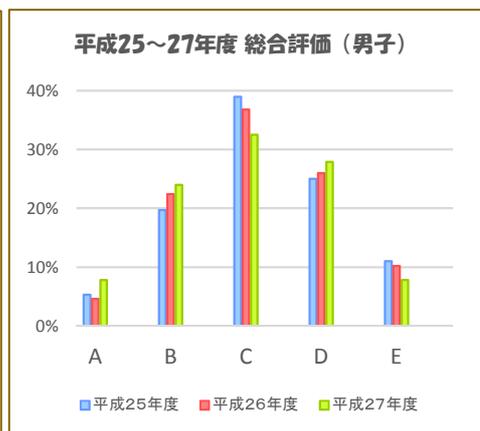
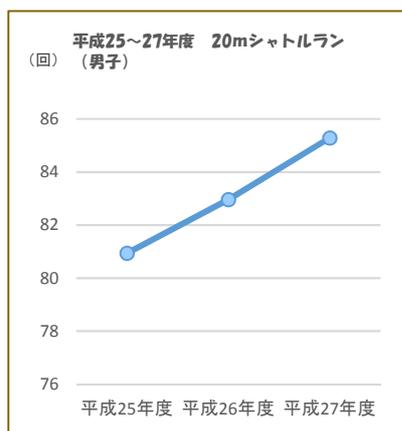
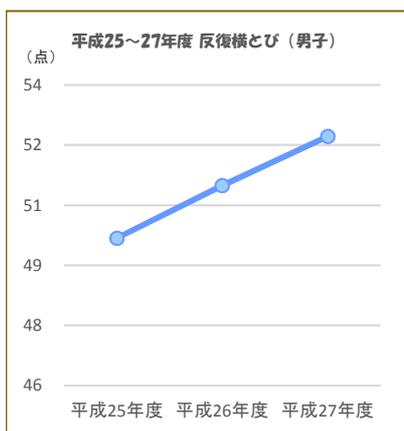


■平成25・26年度と比較■

「長座体前屈・反復横とび・20mシャトルラン」は、平均記録が伸びている。

体力合計点についても、平均値がやや上回っている。

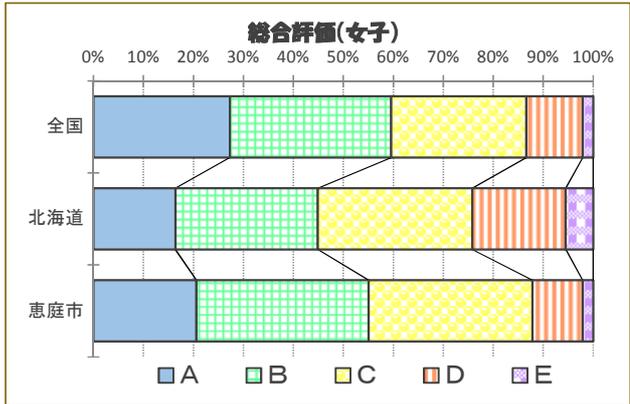
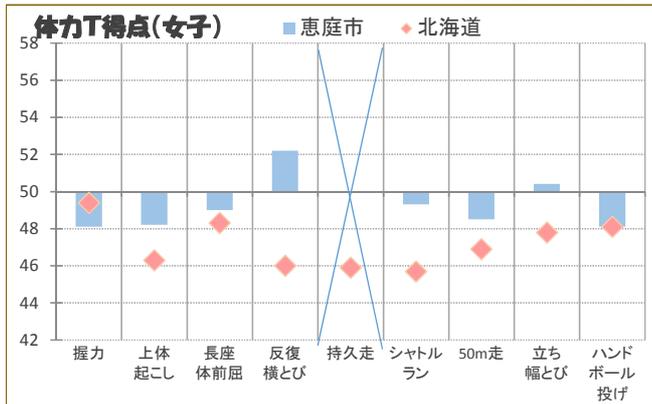
総合評価については、A・B評価の割合が増加しており、E評価は減少している。



<中学校女子>

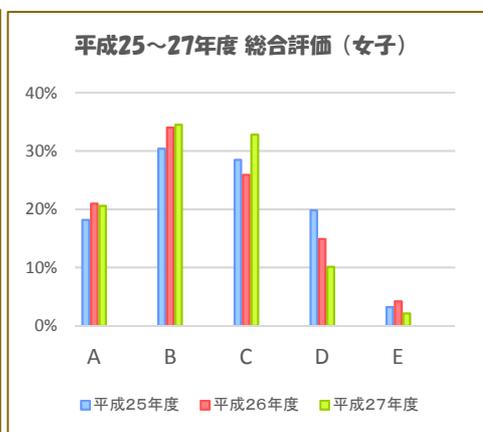
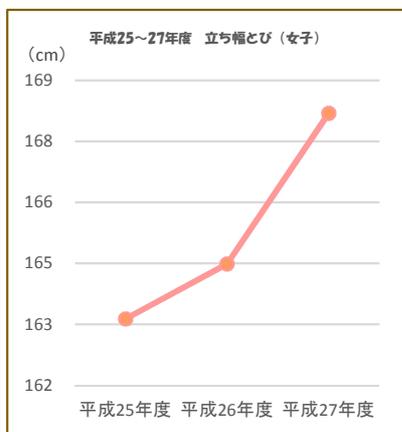
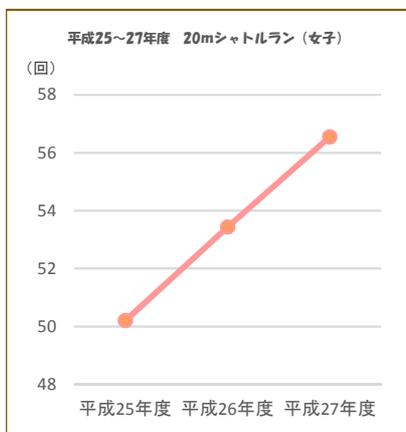
- ㊦全国平均と比較して「反復横とび・立ち幅とび」は、やや上回っており、「握力・長座体前屈・50m走・ハンドボール投げ」は、ほぼ同程度である。
- ㊦全道平均と比較して「20mシャトルラン・立ち幅とび」は上回り、「上体起こし・長座体前屈・反復横とび・50m走」はやや上回っている。「握力・ハンドボール投げ」は、ほぼ同程度である。

中学校（女子）	全国	北海道	恵庭市 (全国と比較)	恵庭市 (全道と比較)	中学校（女子）	全国	北海道	恵庭市 (全国と比較)	恵庭市 (全道と比較)	
握力 (kg)	23.68	23.40	≒	≒	ハンドボール投げ (m)	12.83	12.07	≒	≒	
上体起こし (回)	23.26	21.14	◆	◇	体力合計点 (点)	49.08	44.83	◆	◇	
長座体前屈 (cm)	45.53	43.87	≒	◇	総合評価 (%)	A	27.3%	16.4%	◆	◇
反復横とび (点)	46.09	43.41	◇	◇		B	32.3%	28.5%	◇	◇
持久走 (秒)	290.03	308.22	実施していない			C	27.0%	30.9%	◇	◇
20mシャトルラン (回)	58.06	49.46	◆	△		D	11.3%	18.7%	≒	◆
50m走 (秒)	8.84	9.09	≒	◇		E	2.1%	5.5%	≒	◆
立ち幅とび (cm)	167.28	161.77	◇	△						



■平成25・26年度と比較■

「長座体前屈・反復横とび・20mシャトルラン・立ち幅とび」は過去2年間と比較して、やや上回っており、平均記録が伸びている。
総合評価については、A・B・C評価の割合が増加し、D・E評価の割合が減少傾向である。

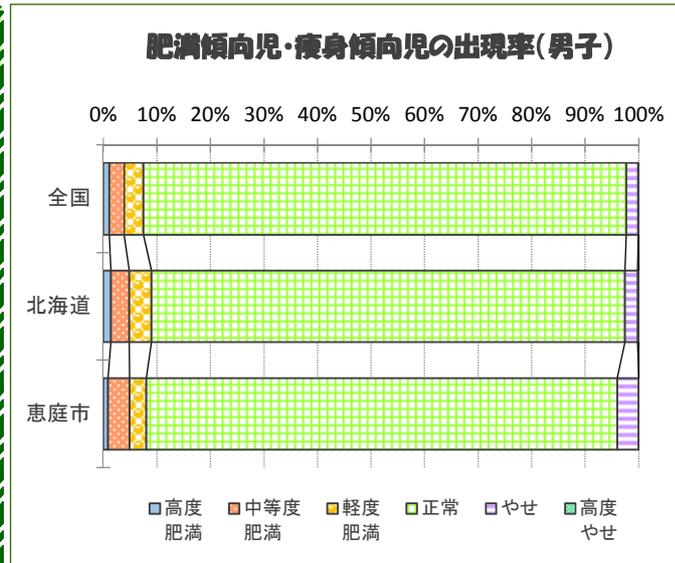


6 体格と肥満度に関する調査結果

<中学校男子>

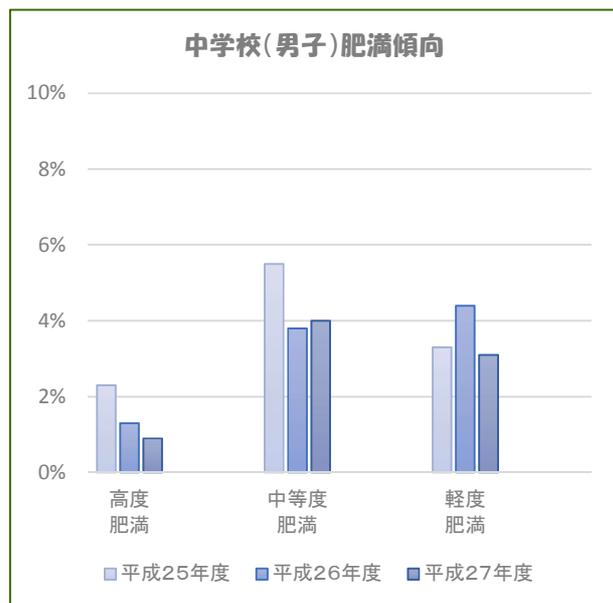
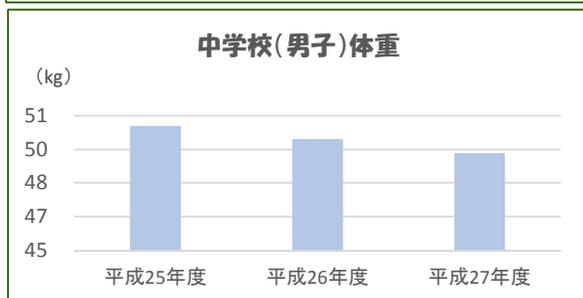
- 全国平均と比較して、身長・体重ともにやや上回っているが、肥満傾向児を比較するとほぼ同じ程度であり、正常生徒は、やや低い。
- 全道平均と比較して、身長・体重ともにほぼ同じ程度であり、肥満傾向児を比較すると、やや下回っており、正常生徒は、ほぼ同じ程度である。

中学校(男子)		全国	北海道	恵庭市 (全国と比較)	恵庭市 (全道と比較)
身長 (cm)		159.73	161.15	◇	≡
体重 (kg)		48.47	50.04	◇	≡
肥満傾向児・ 痩身傾向児の 出現率 (%)	高度肥満	1.1%	1.4%	≡	≡
	中等度肥満	2.8%	3.4%	◇	◇
	軽度肥満	3.6%	4.2%	≡	≡
	正常	90.2%	88.4%	◆	≡
	やせ	2.2%	2.4%	◇	◇
	高度やせ	0.1%	0.2%	≡	≡



■平成25・26年度と比較■

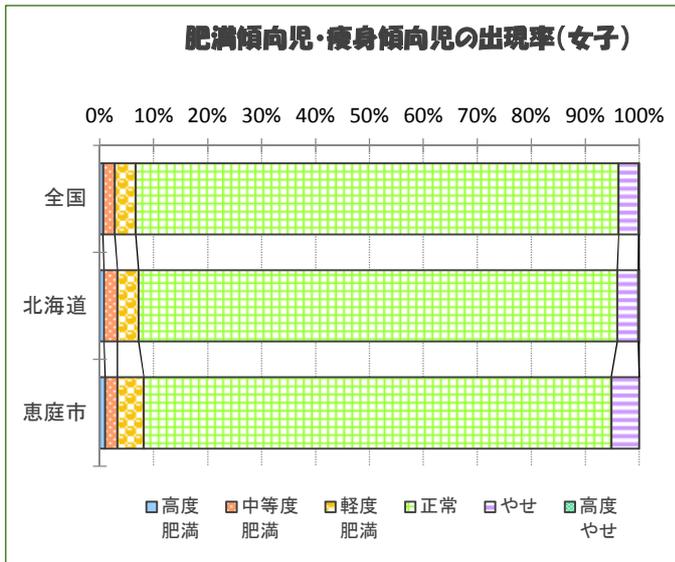
過去2年間と比較して、身長・体重ともにほぼ同程度で変化はない。高度肥満・軽度肥満は低くなっているが、痩身傾向の生徒が増加傾向のため、成長期に食べる大切さを「食育」を通して、呼びかける必要がある。



<中学校女子>

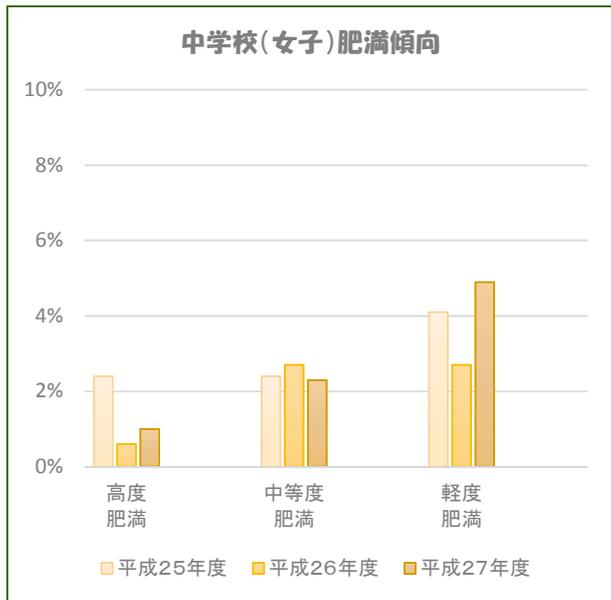
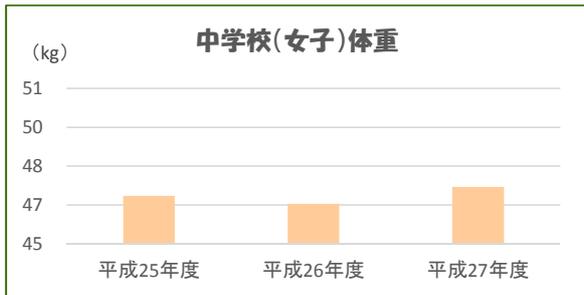
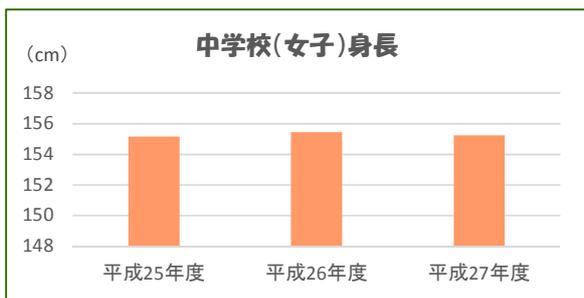
- 全国平均と比較して、身長・体重ともやや上回っている。肥満傾向児を比較してもやや上回っているが、正常生徒はやや下回っている。
- 全道平均と比較して、身長はほぼ同程度。体重はやや上回っている。肥満傾向児を比較すると、高度軽度肥満はやや上回っており、正常生徒ほぼ同程度である。

中学校(女子)	全国	北海道	恵庭市 (全国と比較)	恵庭市 (全道と比較)
身長 (cm)	154.83	155.26	◇	≒
体重 (kg)	46.75	46.95	◇	◇
肥満傾向児・ 痩身傾向児の 出現率 (%)	高度肥満	0.6%	◇	◇
	中等度肥満	2.2%	◇	≒
	軽度肥満	3.9%	◇	◇
	正常	89.5%	◆	≒
	やせ	3.7%	◇	◇
	高度やせ	0.1%	0.2%	≒



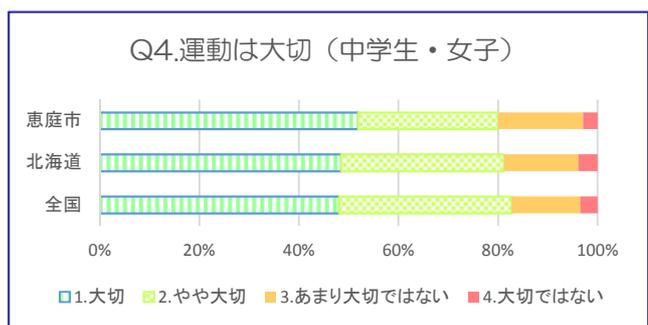
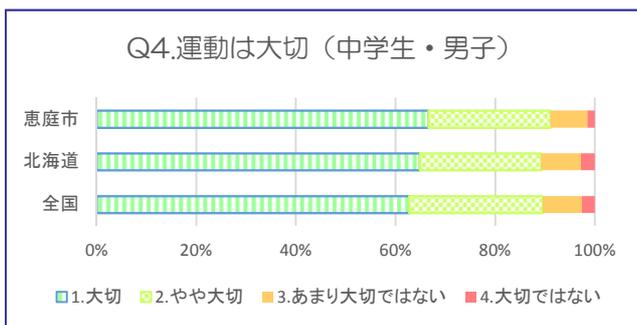
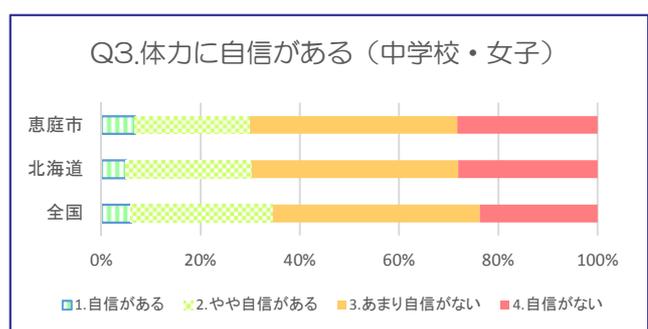
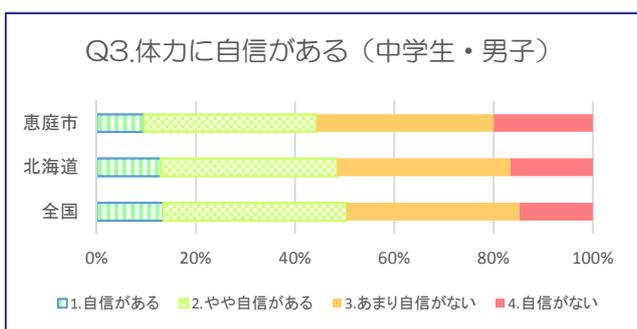
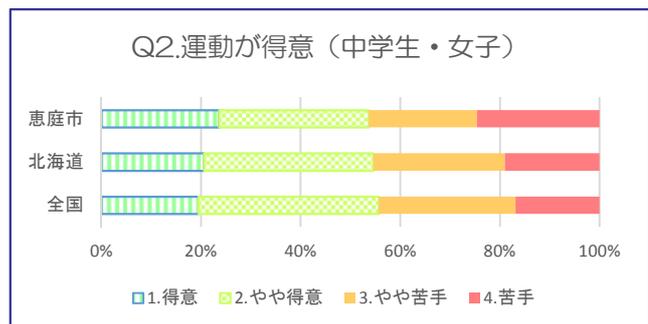
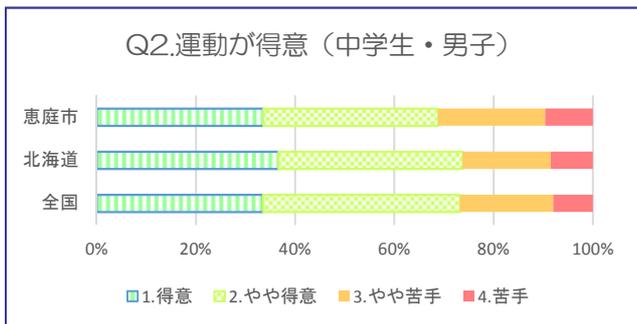
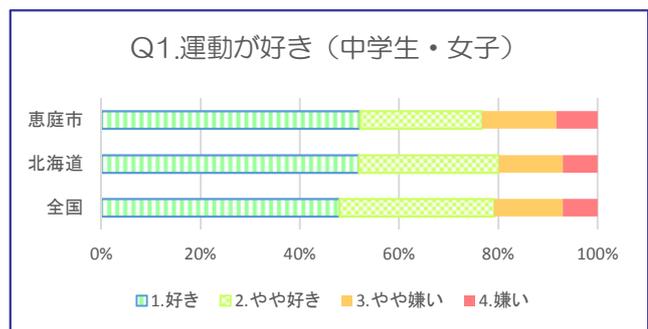
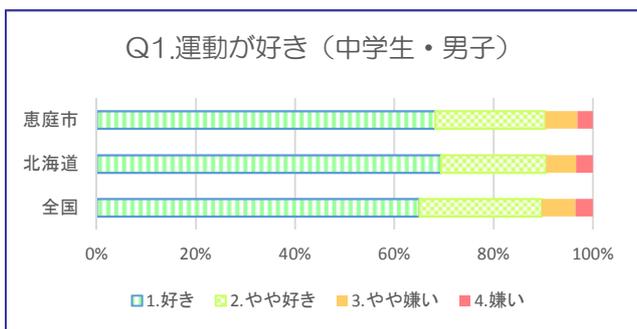
■平成25・26年度と比較■

- 過去2年間と比較して、身長・体重ともほぼ同程度で変化はない。
- 肥満痩身傾向については、軽度肥満が増加しており、痩身傾向も増加しているため、成長期に食べることの大切さを「食育」を通して、呼びかける必要がある。



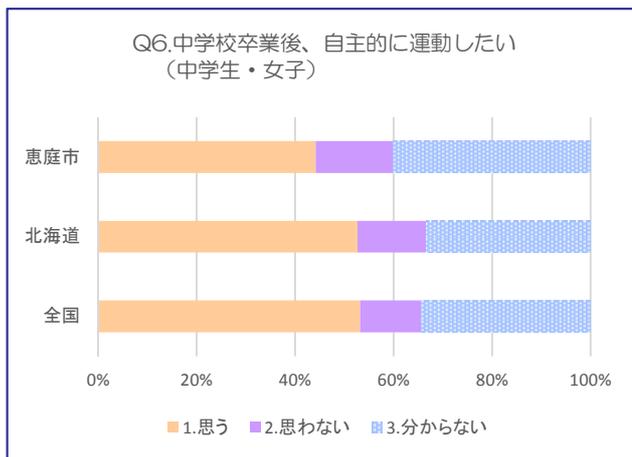
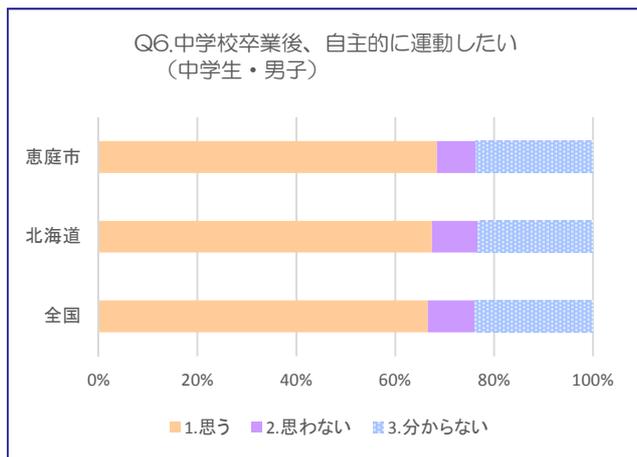
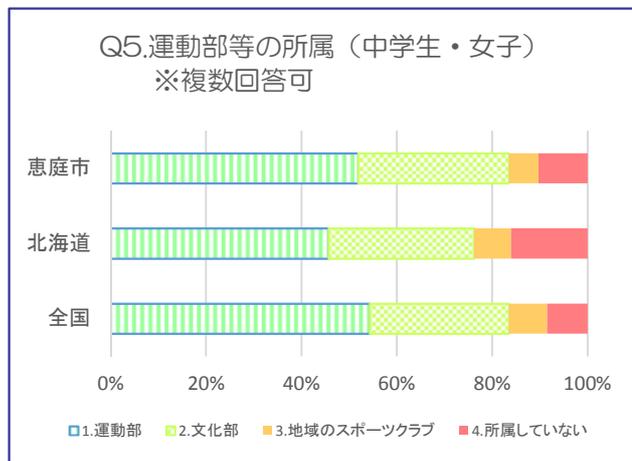
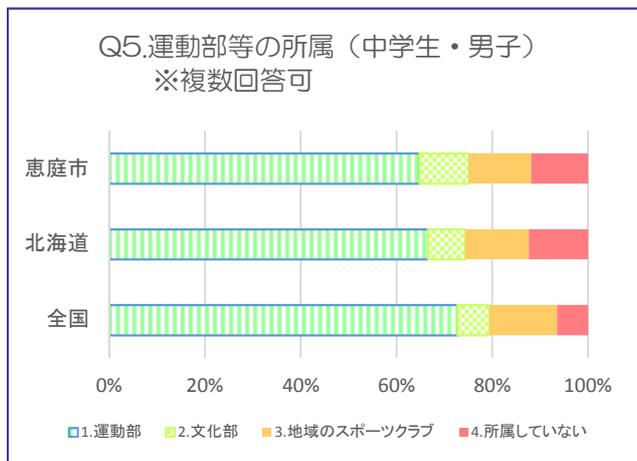
7 児童生徒質問用紙調査の結果

- Q1.** 運動が「好き／やや好き」と回答した割合について、全国平均と比較して、男子はわずかに上回っており、女子はやや下回っている。全道平均と比較すると、男子はほぼ同じ程度であり、女子は低い。
- Q2.** 運動が「得意／やや得意」と回答した割合について、男子は低く、女子はやや下回っている。また、全道平均と比較しても、男子は低く、女子はほぼ同じ程度である。
- Q3.** 体力に「自身がある／やや自身がある」と回答した割合について、全国平均と比較して、男女ともにやや下回っている。また、全道平均と比較すると、男子はやや下回っており、女子はほぼ同じ程度である。
- Q4.** 運動が「大切／やや大切」と回答した割合について、全国平均と比較して、男子は上回っており、女子はやや下回っている。また、全道平均と比較して、男子はわずかに上回っており、女子はわずかに低い。

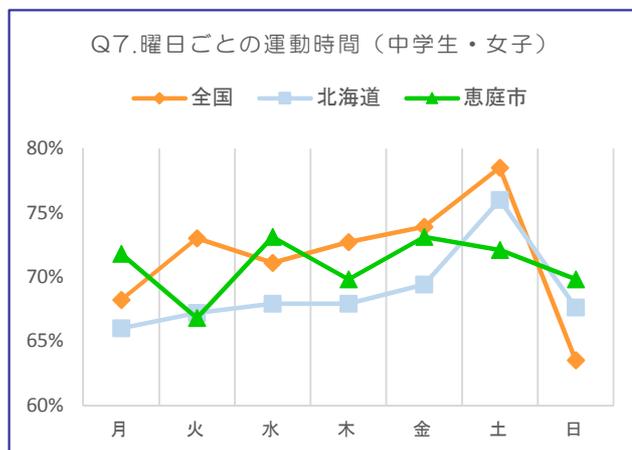
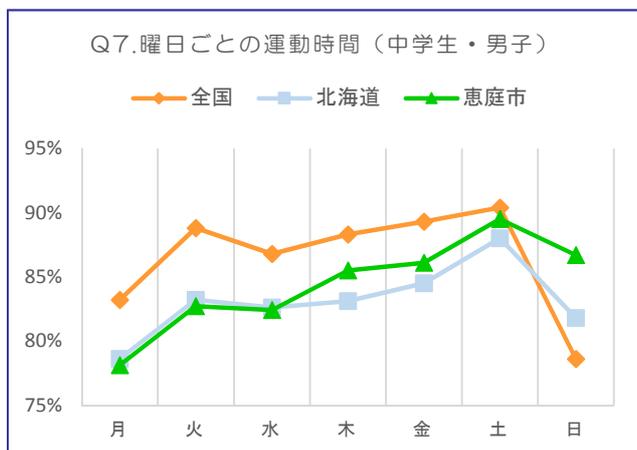


Q5. 『運動部等の所属』のうち『運動部または文化部』に「入っている」と回答した割合について、全国平均と比較して、男女ともにやや下回っている。また、全道平均と比較して、男子はほぼ同じ程度であり、女子は上回っている。

Q6. 『中学校卒業後、自主的に運動したい』と「思う」と回答した割合について、全国全道平均と比較して、男子はわずかに上回っており、女子は低い。

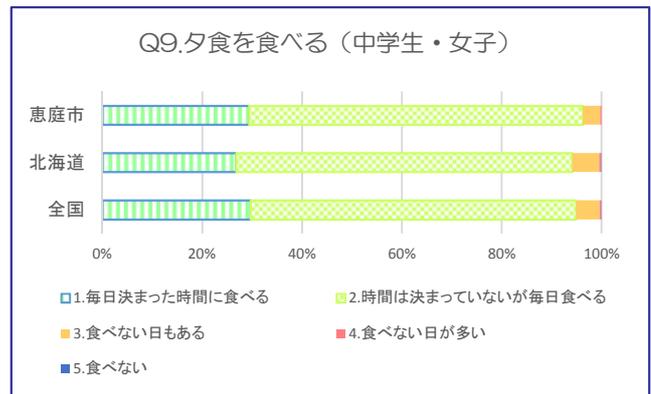
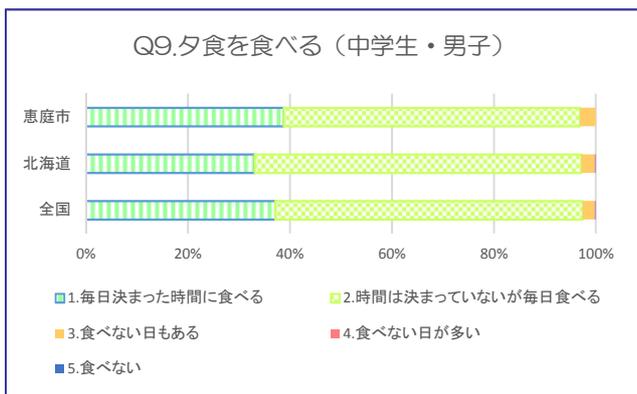
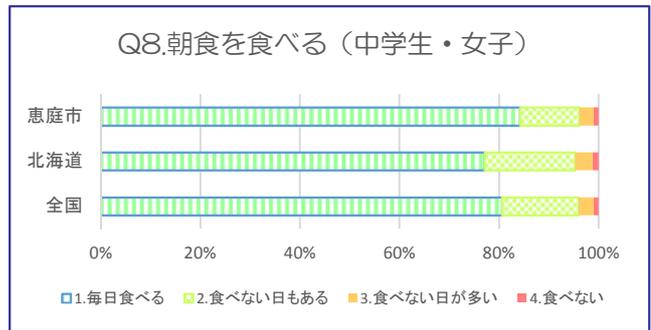
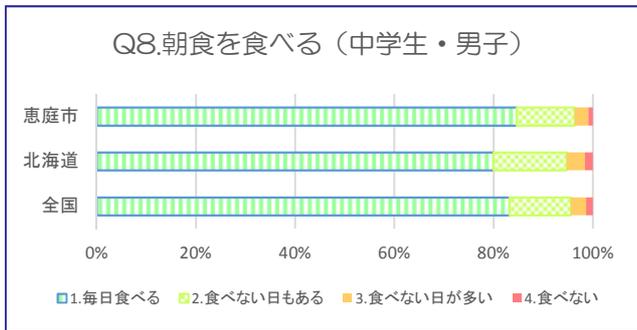


Q7. 『曜日ごとの運動時間』について、男子は月曜日以外すべての曜日の実施率が80%を越えており、月曜日も75%を越えている。木曜日・金曜日・土曜日は全道平均のいずれの平均実施率をやや上回っている。また、日曜日は全国全道平均実施率より高い。女子は、すべての曜日の実施率が65%を越えており、月曜日・水曜日・金曜日・土曜日は70%を越えている。月曜日・水曜日・日曜日が全国全道平均と比較して、いずれも上回っている。



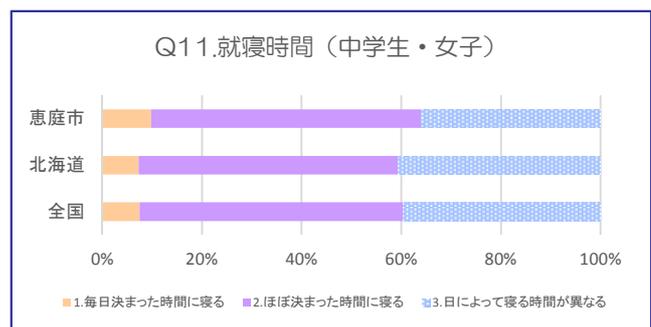
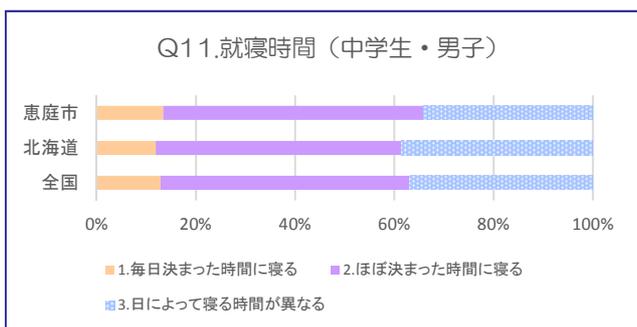
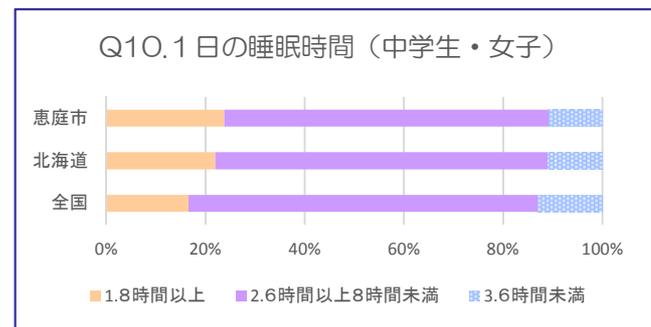
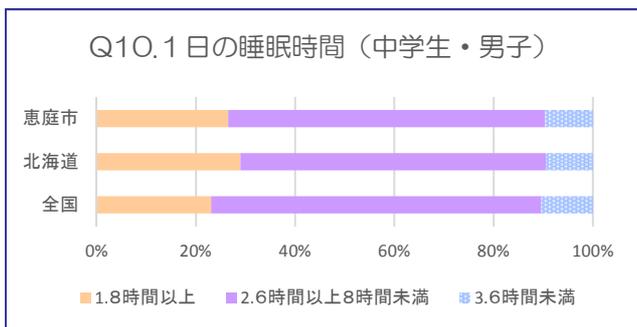
Q8. 『朝食を「毎日食べる」と回答した割合について、全国全道平均と比較して、男女ともにわずかに上回っている。

Q9. 『夕食を「毎日決まった時間に食べる／時間は決まっていないが毎日食べる」と回答した割合について、全国全道平均と比較して、男子はほぼ同じ程度であり、女子は上やや回っている。



Q10. 『1日の睡眠時間』について、男女ともに「6時間以上8時間未満」と回答した割合が最も多いが、男女ともに全国平均と比較すると、やや下回っている。また、全道平均と比較して、男子は上回っており、女子はほぼ同じ程度であった。「6時間未満」と回答した割合は3項目の中で1番低く、男女ともに全国平均よりやや下回っており、全道平均はほぼ同じ程度である。

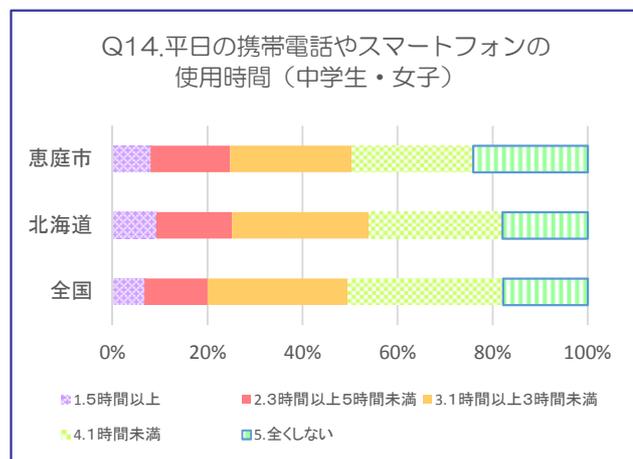
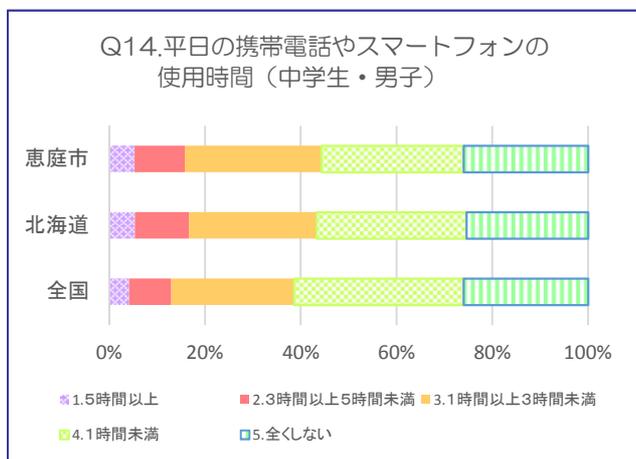
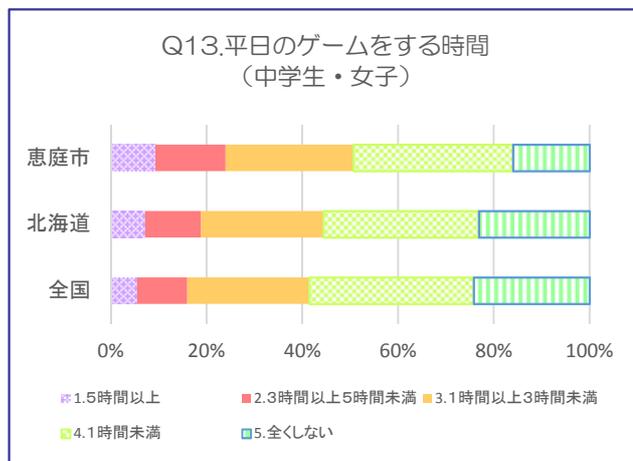
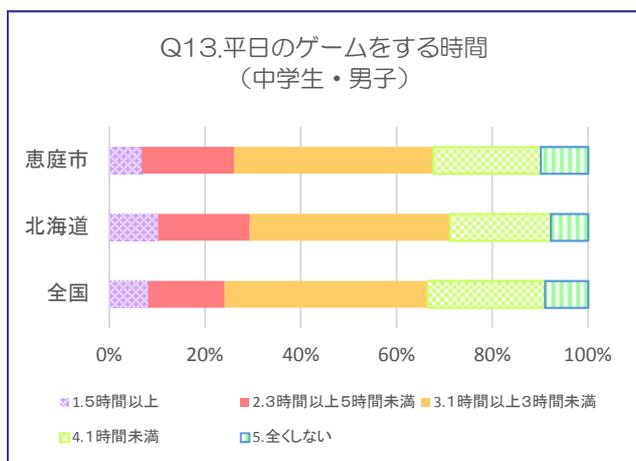
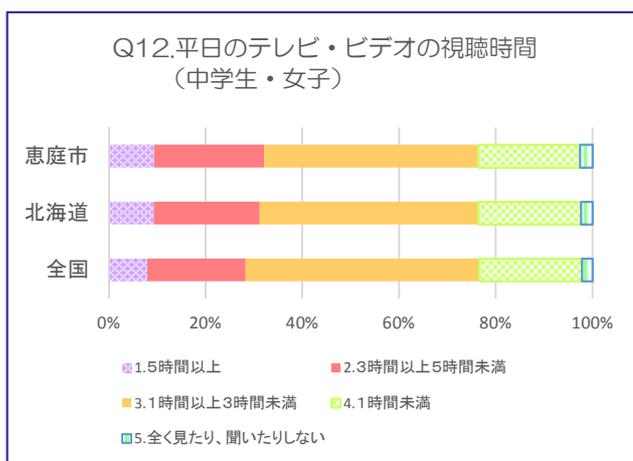
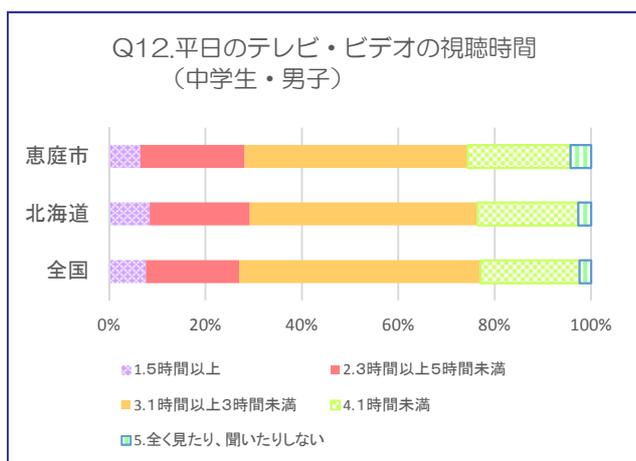
Q11. 『就寝時間は「毎日決まった時間に寝る」と回答した割合について、全国全道平均と比較して、男女ともにやや上回っている。また、「ほぼ決まった時間に寝る」と回答した割合も男女ともに全国全道平均より高い。



Q12.『平日のテレビ・ビデオの視聴時間』について、男女ともに「1時間以上～3時間未満」と回答した割合が最も高い。全国平均と比較して、男女ともにやや下回っており、全道平均と比較すると、男女ともにほぼ同じ程度である。

Q13.『平日のテレビゲームをする時間』について、男子は「1時間以上～3時間未満」と回答する割合が最も高い。全国全道平均と比較すると、わずかに低い。女子は「1時間未満」と回答する割合が最も高い。全国平均と比較して、ほぼ同じ程度であり、全道平均とすると、やや上回っている。また、男女ともに3時間以上の長時間と回答した割合も全国全道平均と比較して、わずかに高い。

Q14.『平日の携帯電話やスマートフォンの使用時間』について、男女ともに「1時間以上3時間未満」または「1時間未満」と回答した割合が高い。全国平均と比較すると、男女ともに下回っており、全道平均と比較して、男子はやや上回っており、女子は低い。

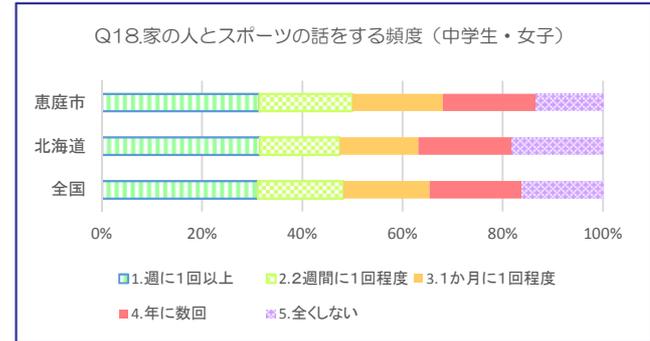
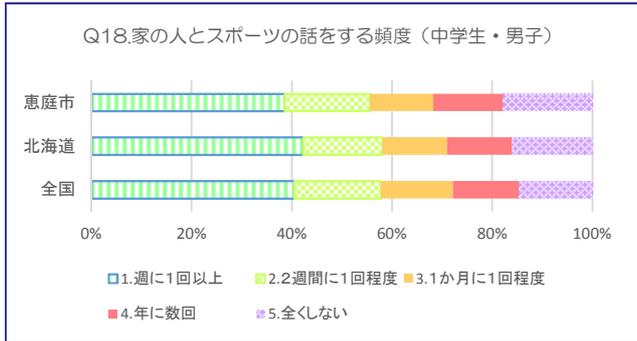
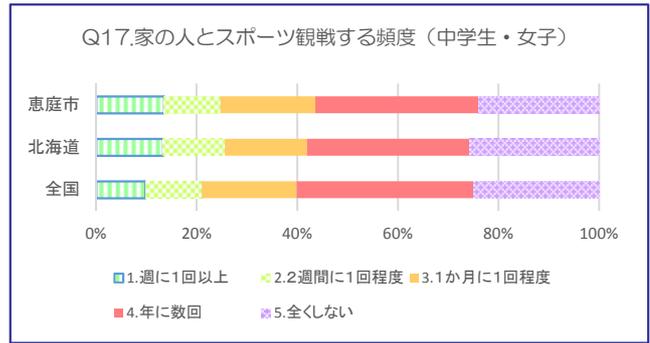
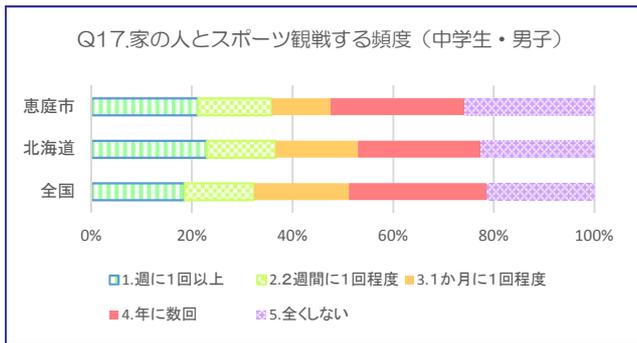
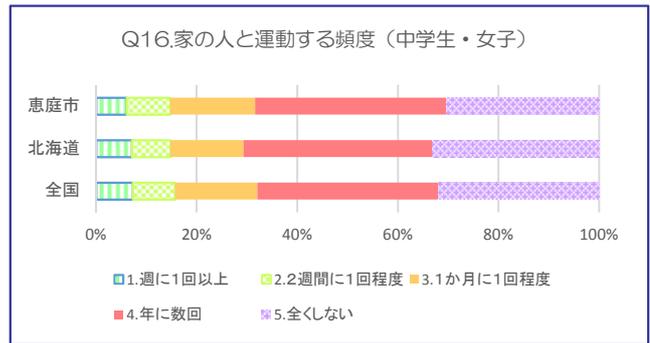
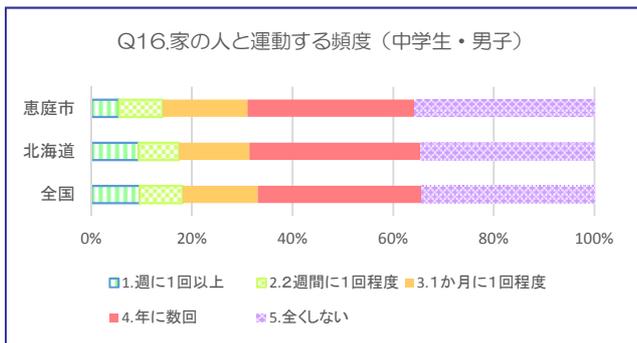
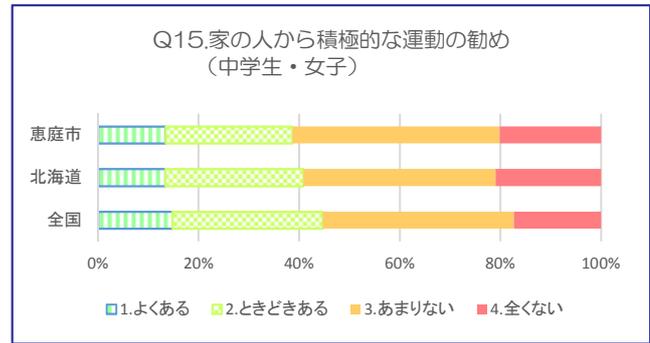
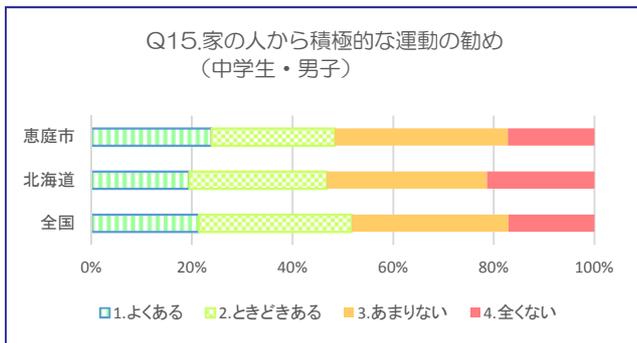


Q15.『家の人から積極的な運動のすすめ』が「よくある／ときどきある」と回答した割合について、全国平均と比較して、男女ともにやや下回っている。また、全道平均と比較すると、男子はやや上回っており、女子はやや下回っている。

Q16.『家の人と運動する頻度』について、男子は「年に数回」または「まったくしない」と回答した割合が高く、全国全道平均と比較すると、上回っている。女子は「年に数回」と回答した割合が高く、全国全道平均と比較して、やや上回っている。

Q17.『家の人とスポーツを観戦する頻度』について、男女ともに「年に数回」と回答する割合が最も高い。全国平均と比較して、男子はほぼ同じ程度であり、女子はやや下回っている。また、全道平均と比較すると、男女ともわずかに上回っている。

Q18.『家の人とスポーツの話をする頻度』について、男女ともに「週に1回以上」と回答した割合が最も高い。全国平均と比較して、男子はほぼ同じ程度であり、女子はわずかに上回っている。また、全道平均と比較すると、男子は低く、女子はほぼ同じ程度である。

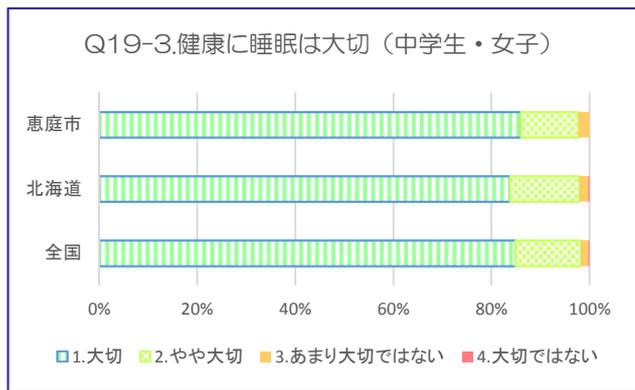
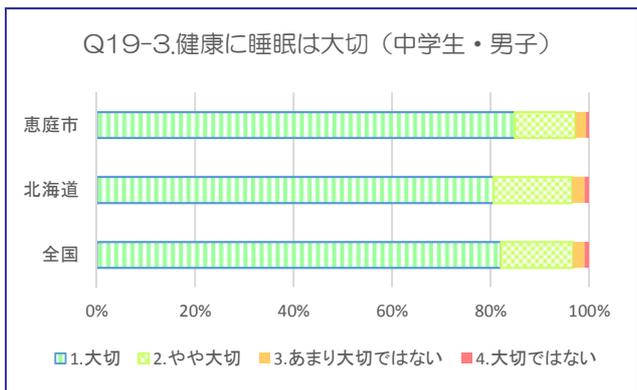
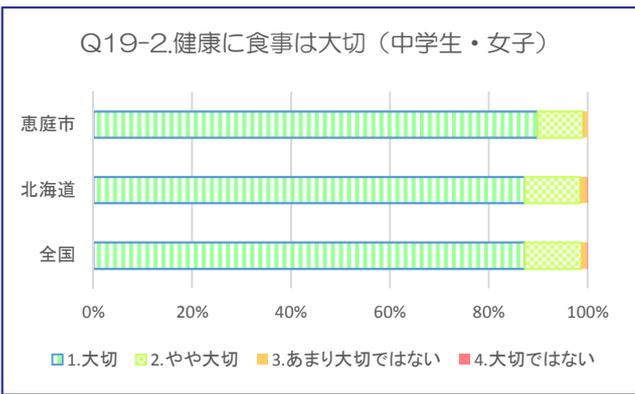
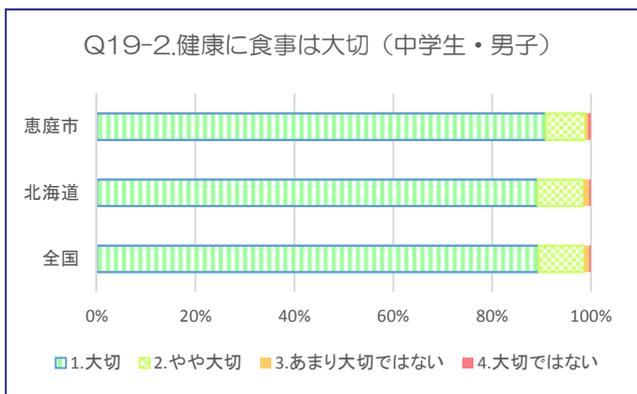
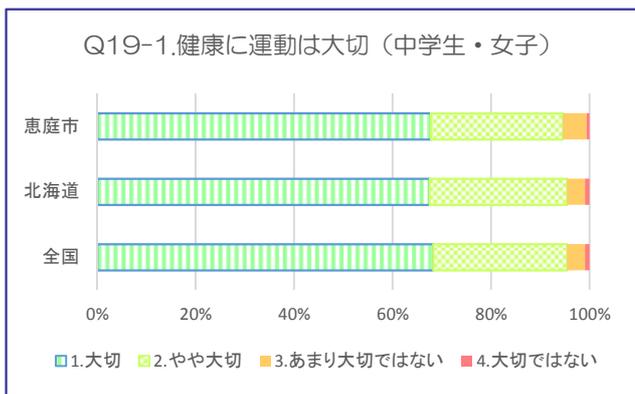
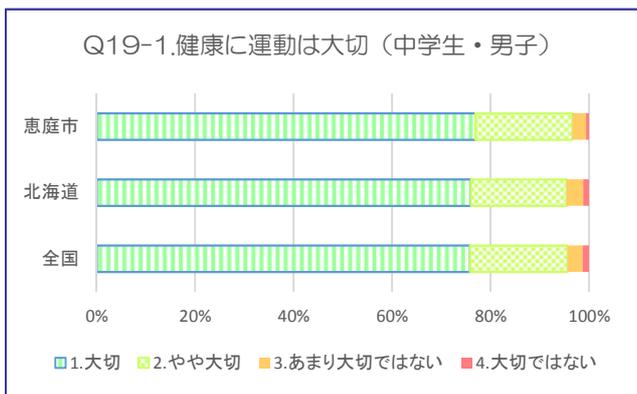


Q 19 健康でいるために大切なこと

Q19-1.健康に運動は「大切／やや大切」と回答した割合について、全国全道平均と比較して、男子はわずかに上回っており、女子はほぼ同じ程度である。

Q19-2.健康に食事は「大切／やや大切」と回答した割合について、全国全道平均と比較して、男女とも大きな差はなかった。

Q19-3.健康に睡眠は「大切／やや大切」と回答した割合について、全国全道平均と比較して、男女とも大きな差はなかった。

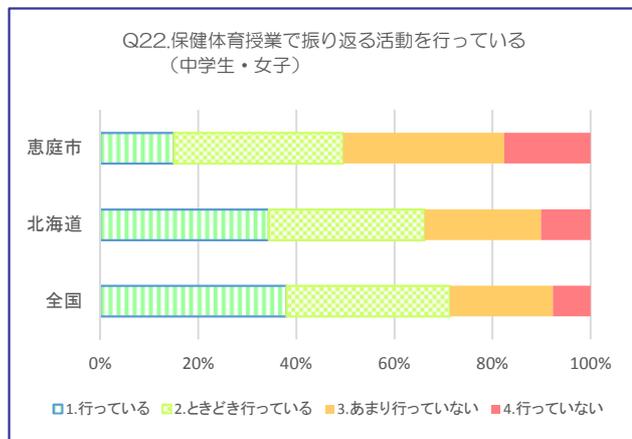
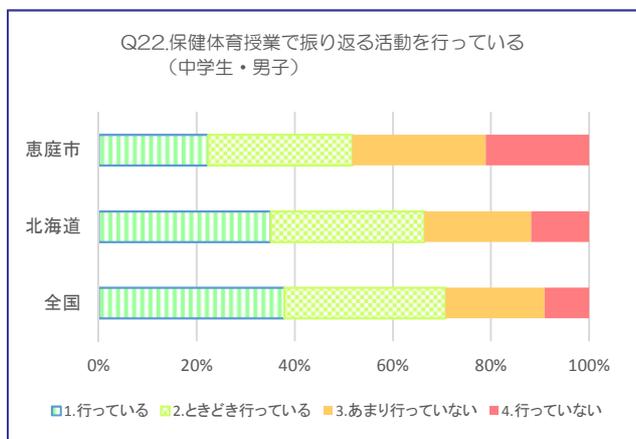
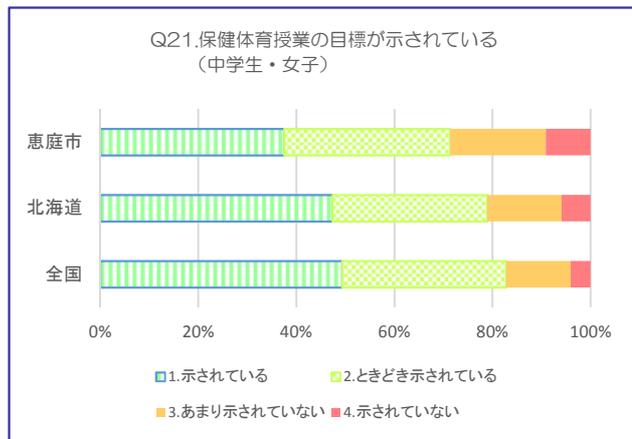
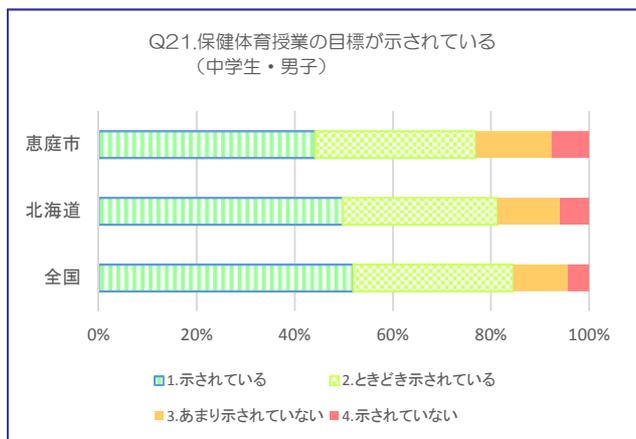
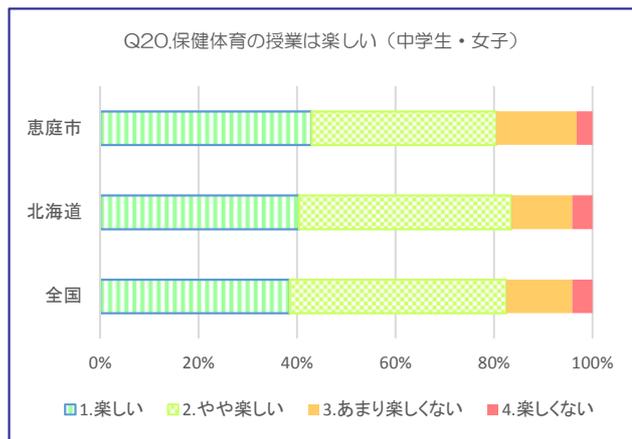
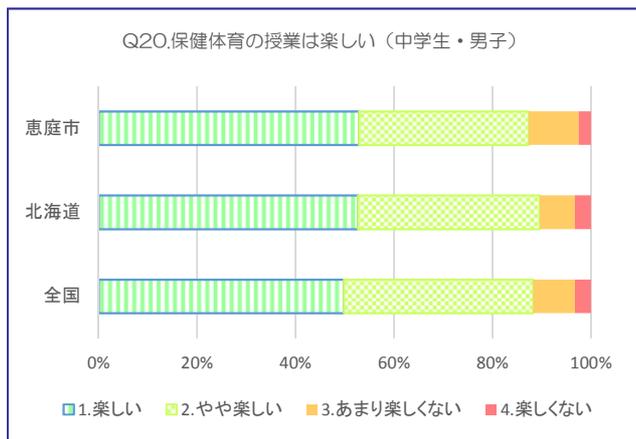


保健体育の授業について

Q20.保健体育の授業が「楽しい／やや楽しい」と回答した割合について、全国平均と比較して、男子はほぼ同じ程度であり、女子はやや下回っている。また、全道平均と比較すると、男女ともにやや下回っている。

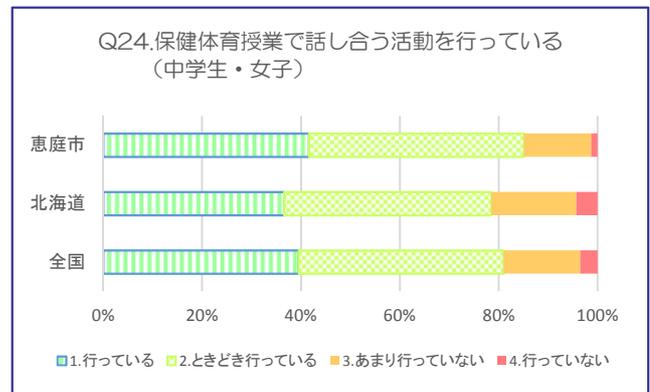
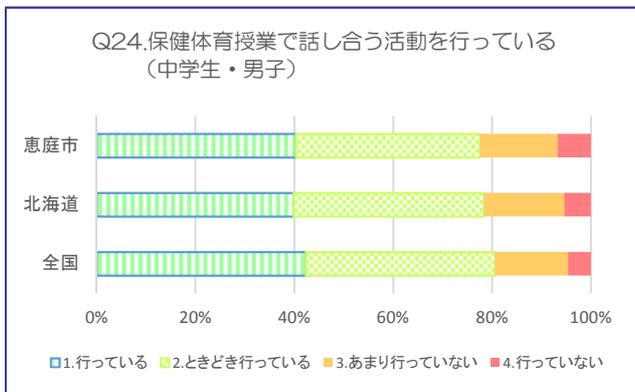
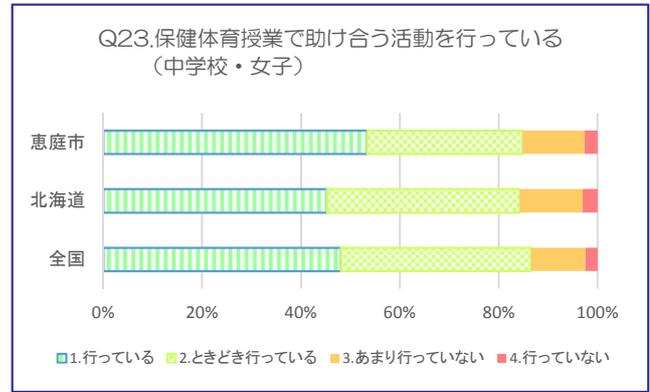
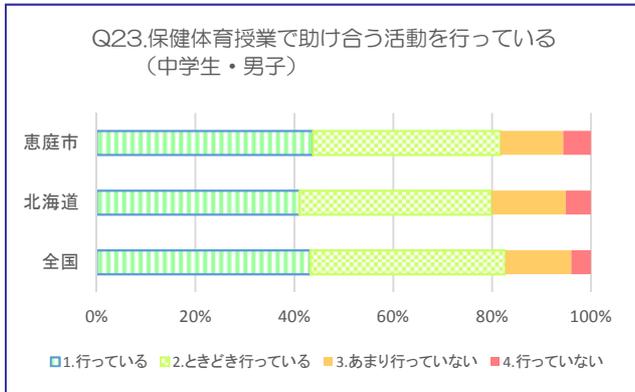
Q21.保健体育授業の目標が「示されている／ときどき示されている」と回答した割合について、全国平均と比較して、男女ともに下回っている。また、全道平均と比較しても、男女ともにやや下回っている。

Q22.保健体育の授業で振り返る活動を行っている割合について、全国全道平均と比較して、男女ともに低い。



Q23.保健体育授業で助け合う活動を行っている／ときどき行っている」と回答した割合について、全国平均と比較して、男女ともにほぼ同じ程度である。また、全道平均と比較すると、男女ともにやや上回っている。

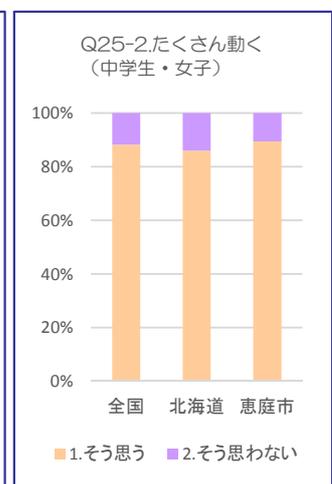
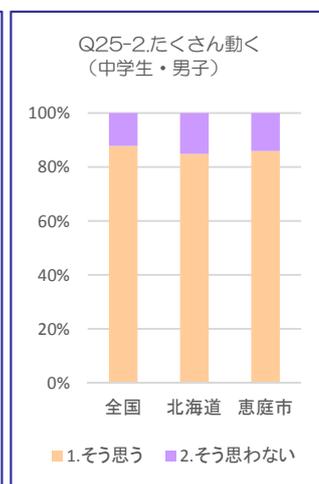
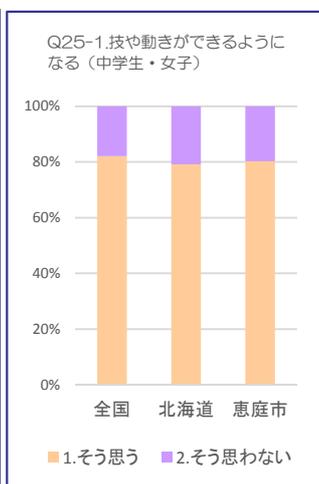
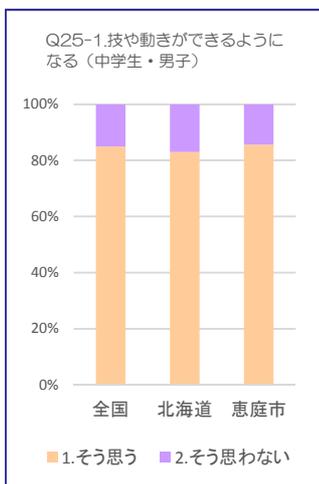
Q24.保健体育授業で話し合う活動を行っている／ときどき行っている」と回答した割合について、全国平均と比較して、男子は低く、女子はやや上回っている。また、全道平均と比較すると、男子はやや下回っており、女子は上回っている。



Q 25 保健体育の授業で感じていること

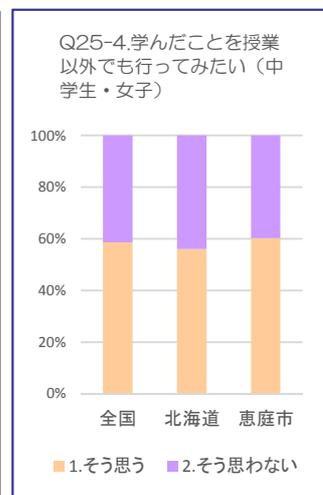
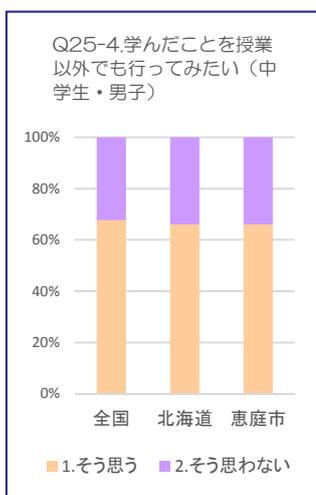
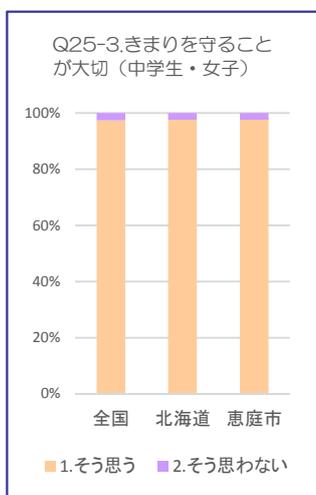
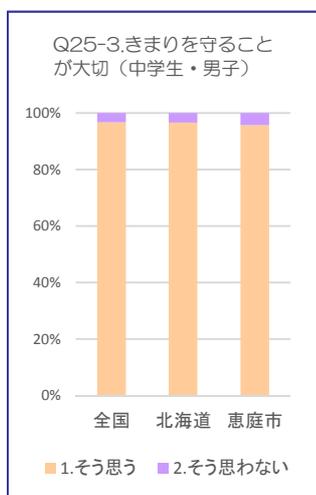
Q25-1.『保健体育の授業では、技や動きができるようになる』について、「そう思う」と回答した割合は、全国平均と比較して、男女とも大きな差はない。また、全道平均と比較すると、男女ともにわずかに上回っている。

Q25-2.『保健体育の授業では、たくさん動く』について、全国平均と比較して、「そう思う」と回答した割合は、男女ともに大きな差はない。また、全道平均と比較すると、男女ともにわずかに上回っている。



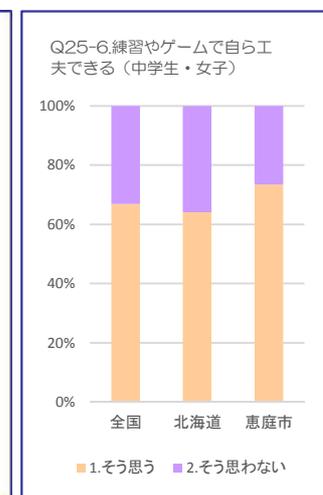
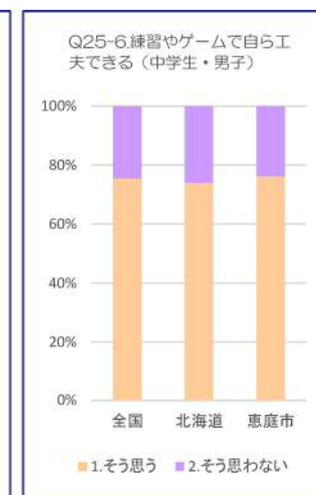
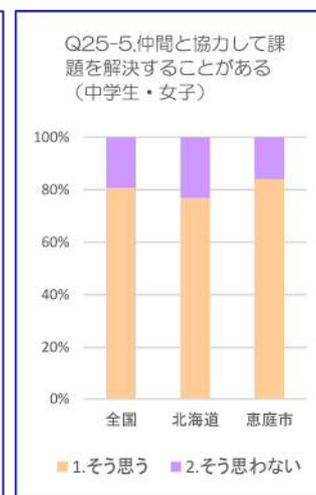
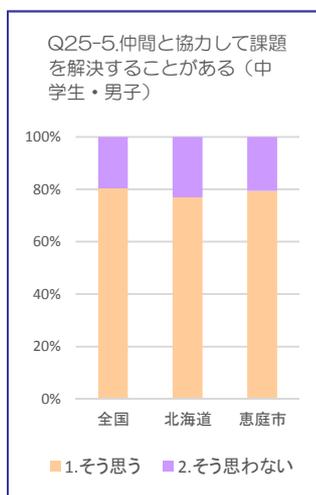
Q25-3.『保健体育の授業では、きまりを守ることが大切』について、「そう思う」と回答した割合は、全国全道平均と比較して、男子はほぼ同じ程度であり、女子ではわずかに上回っている。

Q25-4.『保健体育の授業で、学んだことを授業以外でも行ってみたい』について、「そう思う」と回答した割合は、全国全道平均と比較して、男子はほぼ同じ程度であり、女子はやや上回っている。



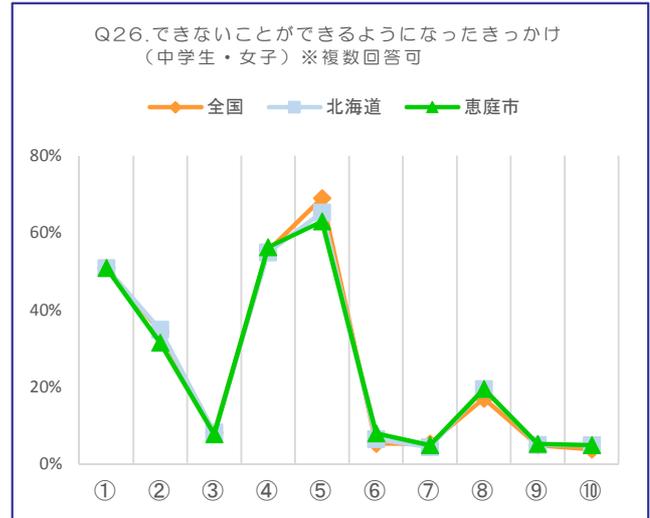
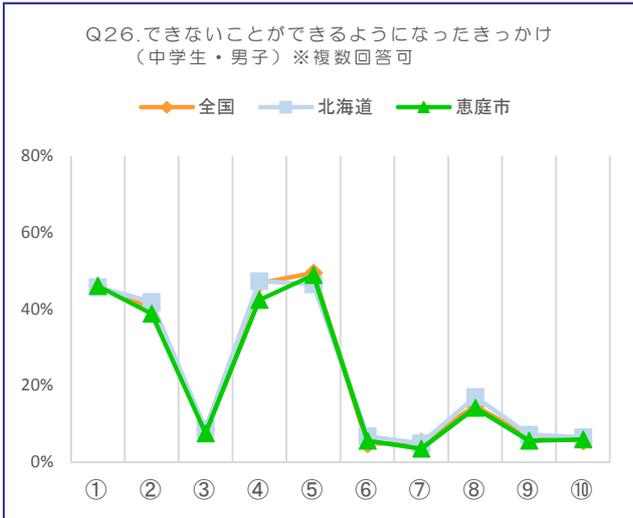
Q25-5.『保健体育の授業では、仲間と協力して課題を解決することがある』について、「そう思う」と回答した割合は、全国平均と比較して、男子はほぼ同じ程度であり、女子は若干上回っている。また、全道平均と比較すると、男女ともに若干上回っている。

Q25-6.『保健体育の授業では、練習やゲームで自ら工夫できる』について、「そう思う」と回答した割合は、全国全道平均と比較して、男子はわずかに上回り、女子ではやや上回った。



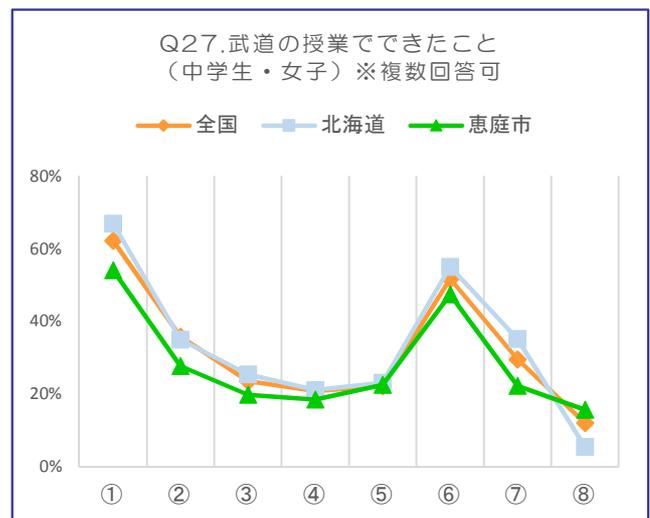
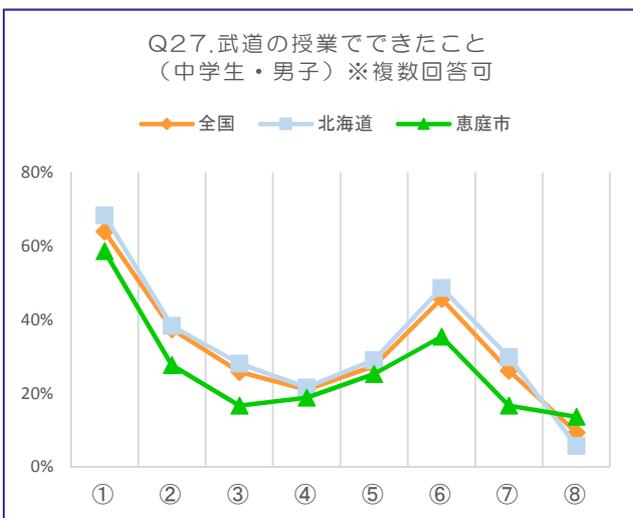
Q26.『できないことができるようになったきっかけ』について、男子は「①授業中に先生に個別にコツやポイントを教えてもらった、②授業中に自分で工夫して練習した、④先生や友達のまねをしてみた、⑤友達に教えてもらった」と回答した割合が高い。全国全道平均と比較すると、「④先生や友達のまねをしてみた」が若干低い。女子は「①授業中に先生に個別にコツやポイントを教えてもらった、④先生や友達のまねをしてみた、⑤友達に教えてもらった」と回答した割合が高く、全国全道平均と比較すると、「④先生や友達のまねをしてみた」が若干高い。

- ① 授業中に先生に個別にコツやポイントを教えてもらった
- ② 授業中に自分で工夫して練習した
- ③ 自分に合った場やルールが用意された
- ④ 先生や友達のまねをしてみた
- ⑤ 友達に教えてもらった
- ⑥ 授業中に自分の動きを撮影したビデオを見た
- ⑦ 授業外の時間に先生に教えてもらった
- ⑧ 授業外の時間に自分で練習した
- ⑨ 授業外の時間に自分で本を読んだりビデオを見たりした
- ⑩ できるようになったことがない



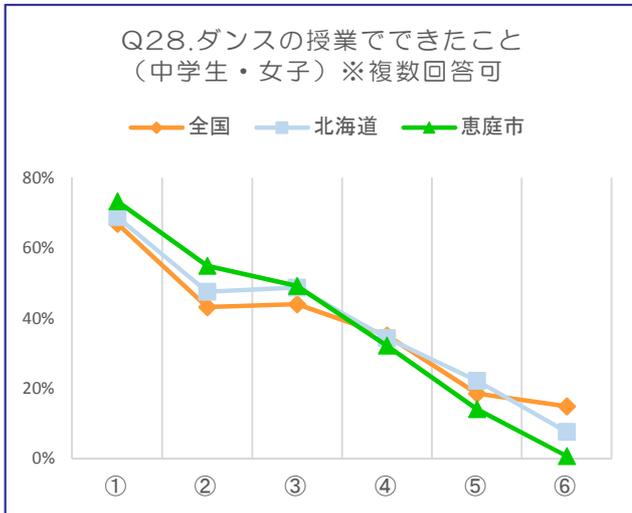
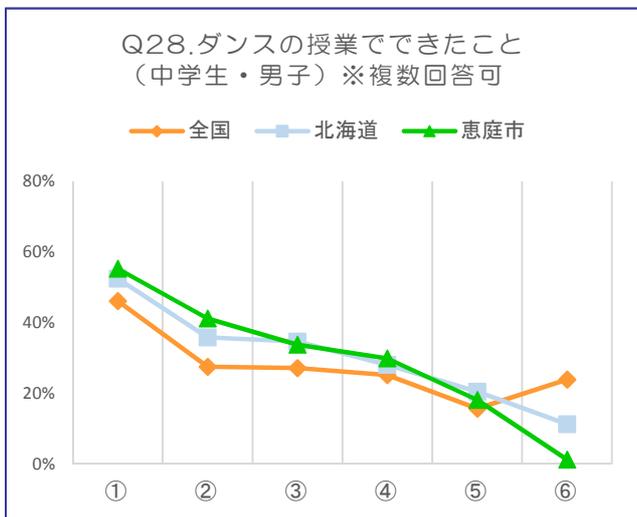
Q27.『武道の授業でできたこと』について、男女ともに「①基本となる技を身に付けること、⑥礼儀・作法を守ること」と回答した割合が高い。また、全国全道平均と比較すると、男女ともに「②技ができる楽しさを味わうこと、⑦自己や仲間の安全に留意すること」などが下回っている。

- ① 基本となる技をみにつけること
- ② 技ができる楽しさを味わうこと
- ③ 武道に積極的に取り組むこと
- ④ 武道の伝統的な考え方を理解すること
- ⑤ 相手を尊重すること
- ⑥ 礼儀・作法など伝統的な行動の仕方を守ること
- ⑦ 自己や仲間の安全に留意すること
- ⑧ 入学してからまだ行っていない

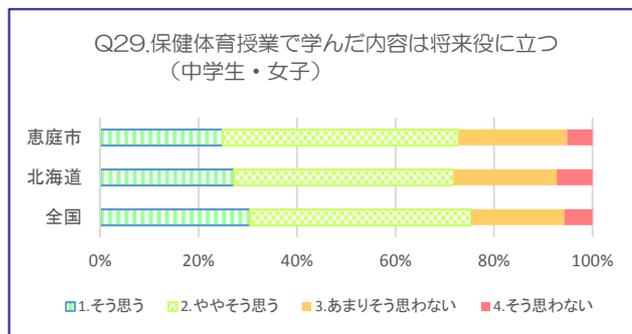
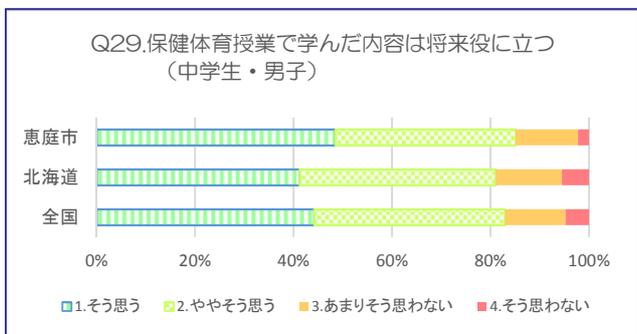


Q28.『ダンスの授業でできたこと』について、男女ともに「①みんなで踊る楽しさを味わうこと、②ダンスに積極的に取り組むこと、③仲間と表現や踊りを通して交流すること」と回答した割合が高い。また、全国全道平均と比較すると、男女ともに「①みんなで踊る楽しさを味わうこと、②ダンスに積極的に取り組むこと」が上回っている。

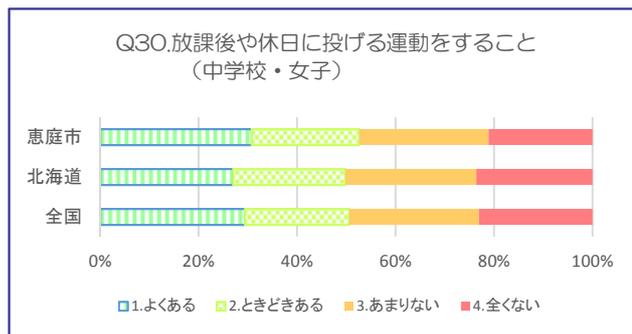
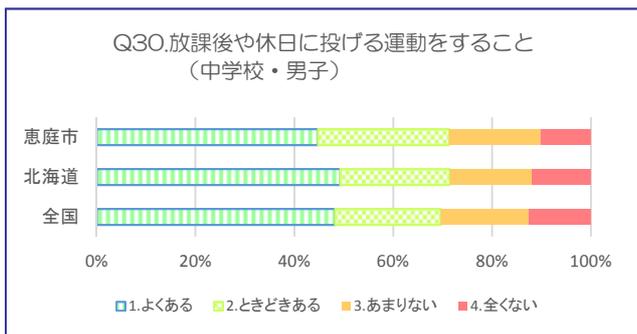
- ①みんなで踊る楽しさを味わうこと ②ダンスに積極的に取り組むこと ③仲間と表現や踊りを通して交流すること
 ④仲間の良さを認めること ⑤自己や仲間の安全に留意すること ⑥入学してからまだ行っていない



Q29.『体育授業で学んだ内容は将来役に立つ』について、「そう思う/ややそう思う」と回答した割合は、全国平均と比較して、男子はやや上回っているが、女子はわずかに下回っている。また、全道平均と比較すると、男女ともに上回っている。

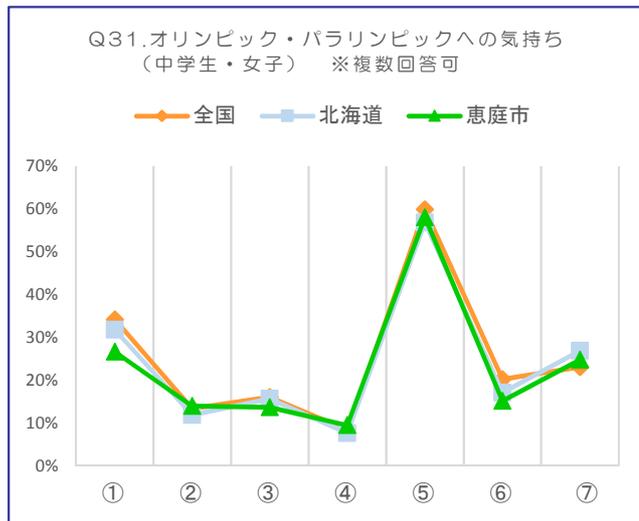
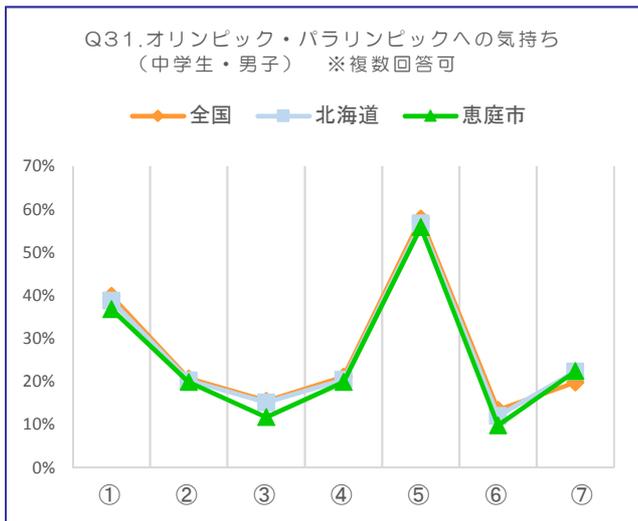


Q30.『放課後や休日に投げる運動をすること』が、「よくある、ときどきある」と回答した割合について、全国平均と比較して、男女ともに若干上回っている。また、全道平均と比較すると、男子はほぼ同じ程度であり、女子はわずかに上回っている。



Q31.『オリンピック・パラリンピックへの気持ち』について、男女ともに「①運動に関心が高まってきた、⑤試合を見に行ってみたい」と回答した割合が高い。しかし、「①運動に関心が高まってきた、③オリンピック・パラリンピックの内容・歴史を知りたい」と回答した割合が全国全道平均と比較すると、若干低い。

- ①運動やスポーツに関心が高まってきた
- ②オリンピック・パラリンピックの種目を自分も行ってみたい
- ③オリンピック・パラリンピックの内容・歴史を知りたい
- ④自分も選手として出場してみたい
- ⑤試合を見に行ってみたい
- ⑥大会の開催の手伝いやボランティアをしてみたい
- ⑦分からない



8 学校質問紙調査の結果

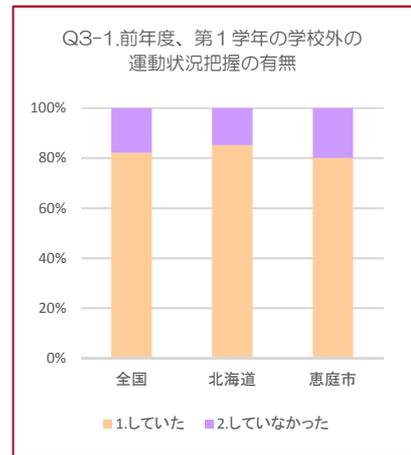
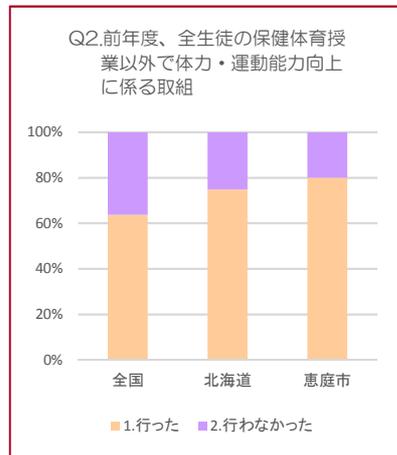
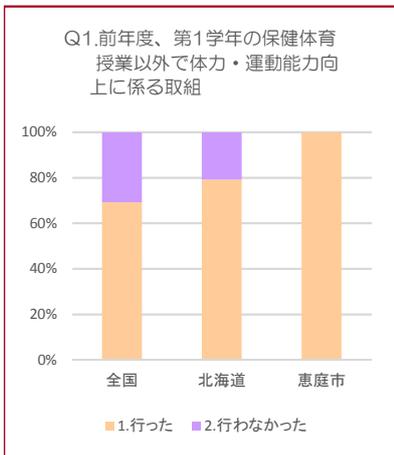
生徒数平均値

中学校	調査数 (校数)	1校あたりの生徒数平均値(人)						保健体育科教員数(人)		
		全校			第5学年			専任	常勤講師	非常勤講師
		男子	女子	合計	男子	女子	合計			
全国	10,027	164	154	318	54	51	105	2.20	0.42	0.19
北海道	633	106	103	209	35	34	69	1.66	0.04	0.04
恵庭市	5	201	205	406	68	66	134	2.80	0.00	0.00

Q1.『前年度、第1学年の保健体育授業以外で体力・運動能力向上に係る取組』を「行った」と回答した割合は、全国全道平均と比較して、上回っており、恵庭市ではすべての学校が行ったと回答している。

Q2.『前年度、全生徒の保健体育授業以外で体力・運動能力向上に係る取組』について「行った」と回答した割合は、全国全道平均と比較して高い。

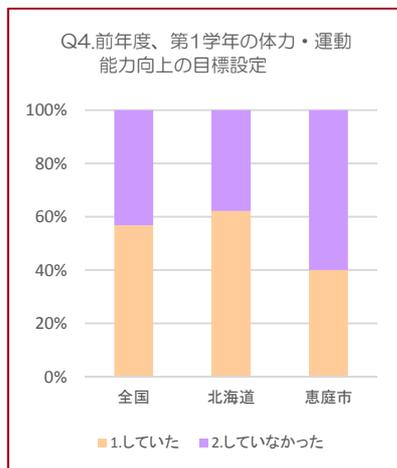
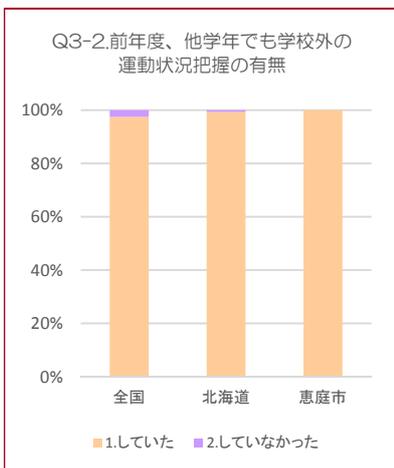
Q3-1.『前年度、第1学年の学校外の運動状況把握の有無』を「していた」と回答した割合は、全国全道平均と比較して、やや下回っている。



Q3-2.『前年度、他学年でも学校外の運動状況把握の有無』を「していた」と回答した割合は、全国全道平均と比較して、上回っており、恵庭市ではすべての学校がしていたと回答している。

Q4.『前年度、第1学年の体力・運動能力向上の目標設定』について「していた」と回答した割合は、全国全道平均と比較して、下回っている。

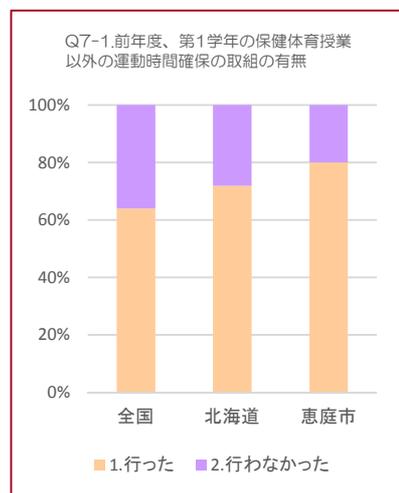
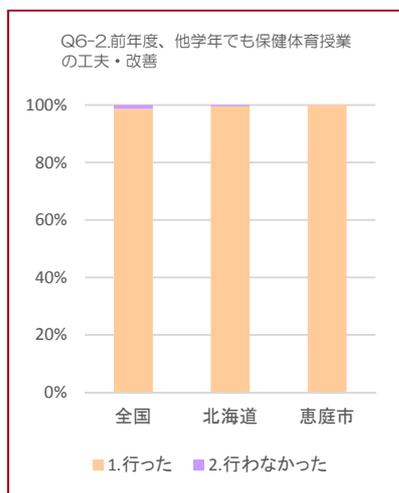
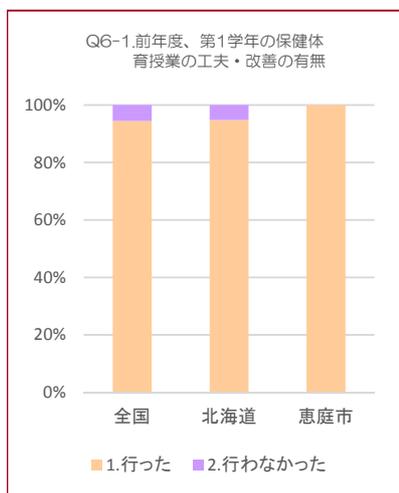
Q5.『前年度、学校全体で体力・運動能力向上の目標設定』は「していた」と回答する割合は、全国全道平均と比較して、わずかに上回っている。



Q6-1.『前年度、第1学年の保健体育授業の工夫・改善』を「行った」と回答した割合は、全国全道平均と比較して、上回っており、恵庭市はすべての学校が行ったと回答している。

Q6-2.『前年度、他学年でも保健体育授業の工夫・改善』を、恵庭市はすべての学校が行ったと回答しており、全国全道においても100%に近い学校が行っている。

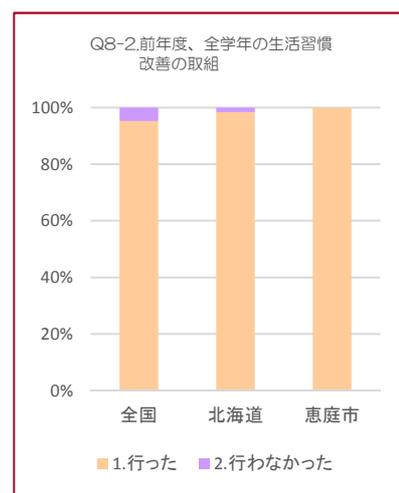
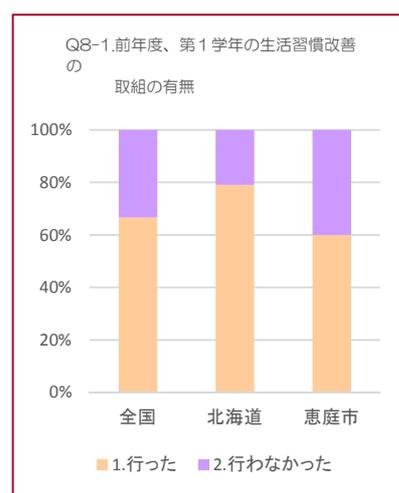
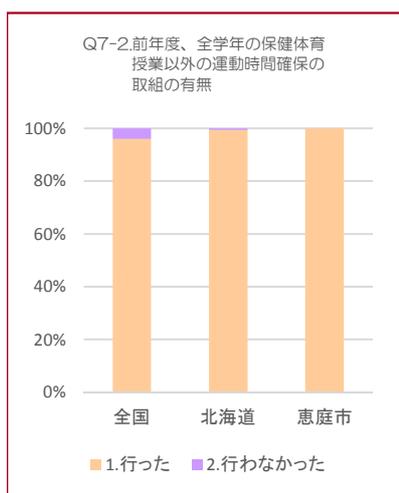
Q7-1.『前年度、第1学年の保健体育授業以外の運動時間確保の取組』について「行った」と回答した割合は、全国全道平均と比較して高い。



Q7-2.『前年度、全学年の保健体育授業以外の運動時間確保の取組の有無』を恵庭市では、すべての学校が行ったと回答しており、全国全道においても100%近い学校が取組んでいる。

Q8-1.『前年度、第1学年の生活習慣改善の取組』について「行った」と回答した割合は、全国平均と比較して、やや下回っており、全道平均と比較しても、下回っている。

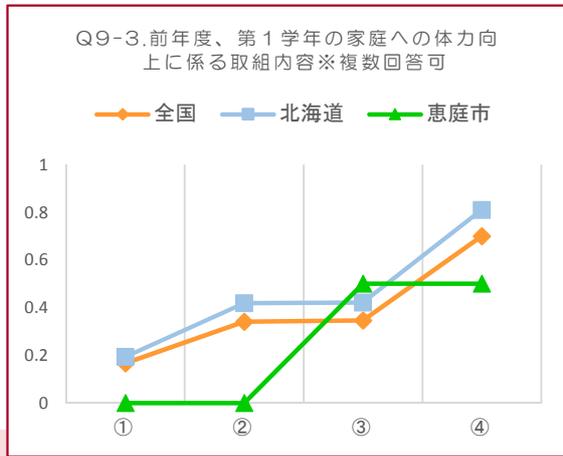
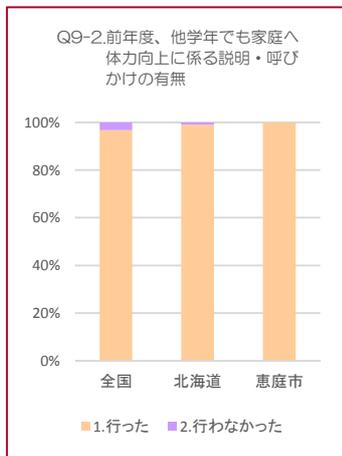
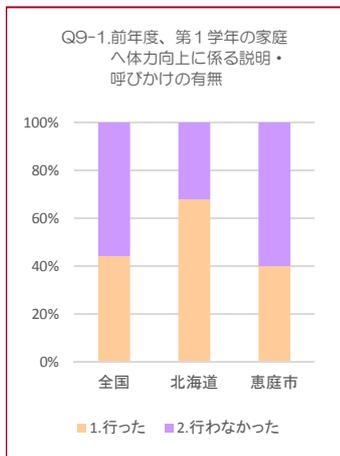
Q8-2.『前年度、全学年の生活習慣改善の取組』を、恵庭市はすべての学校が行ったと回答しており、全国全道においても100%に近い学校が取組んでいる。



Q9-1.『前年度、第1学年の家庭へ体力向上に係る説明・呼びかけ』について「行った」と回答した割合は、全国平均と比較して、やや下回っており、全道平均と比較しても、下回っている。

Q9-2.『前年度、他学年でも家庭へ体力向上に係る説明・呼びかけ』を、恵庭市はすべての学校が行ったと回答しており、全国全道においても100%に近い学校が行っている。

Q9-3.『前年度、第1学年の家庭への体力向上に係る取組内容』について恵庭市では、「③地域スポーツ行事への参加を啓発」「④生活習慣を整えるための働きかけ」と回答した割合が高い。



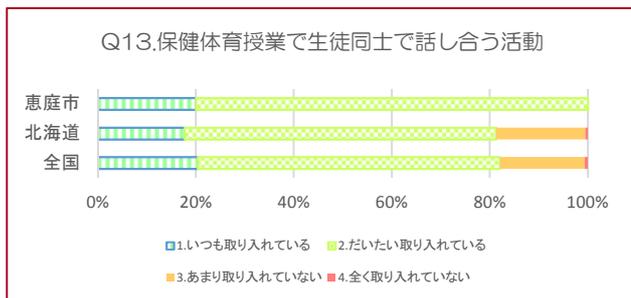
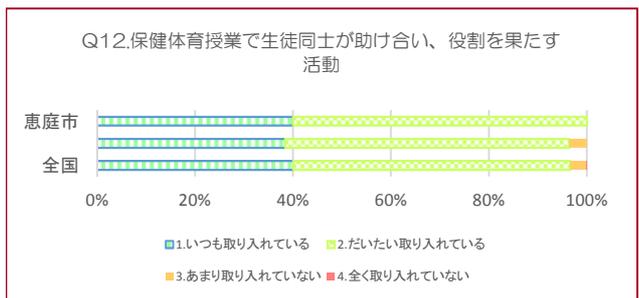
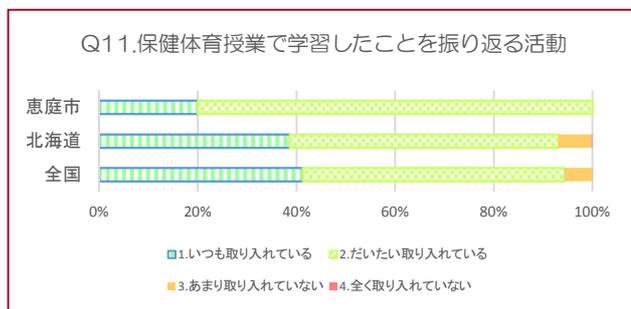
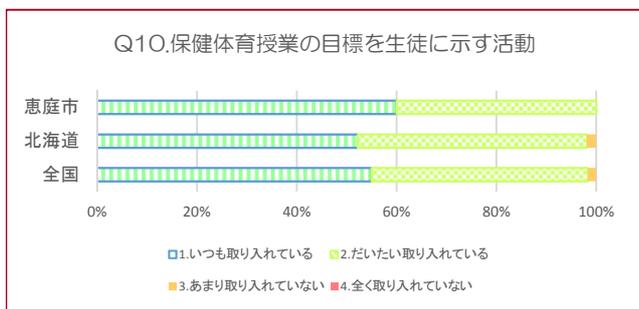
①家の人と運動する機会の設定 ②運動啓発の資料配布・HPでの呼びかけ
③地域スポーツ行事への参加を啓発 ④生活習慣を整えるための働きかけ

Q10.『保健体育授業の目標を生徒に示す活動』を「いつも取り入れている／だいたい取り入れている」と恵庭市では、すべての学校が回答しており、全国全道もほぼ100%で大きな差はない。

Q11.『保健体育授業で学習したことを振り返る活動』について「いつも取り入れている／だいたい取り入れている」と回答した割合は、全国全道平均と比較して、上回っており、恵庭市ではすべての学校が100%と回答している。

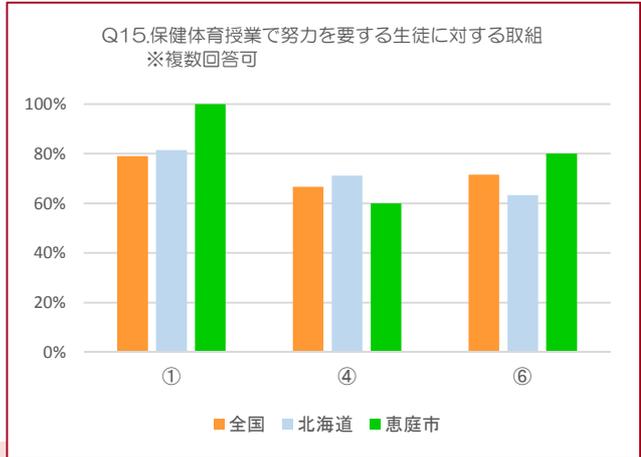
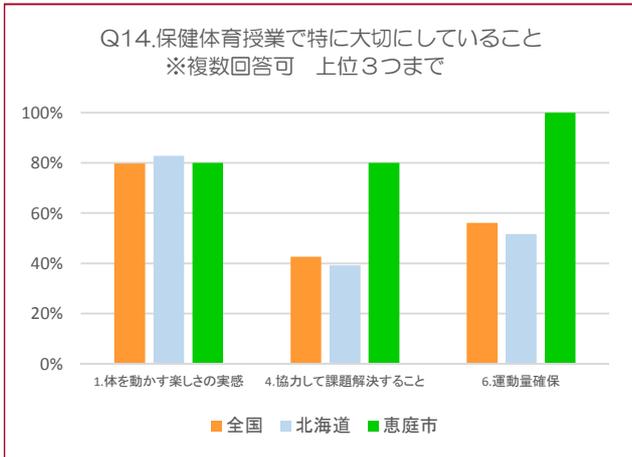
Q12.『保健体育授業で生徒同士が助け合い、役割を果たす活動』について「いつも取り入れている／だいたい取り入れている」と回答した割合は、全国全道平均と比較して、上回っており、恵庭市ではすべての学校が100%と回答している。

Q13.『保健体育授業で生徒同士で話し合う活動』について「いつも取り入れている、だいたい取り入れている」と回答した割合は、全国全道平均と比較して、大きく上回っており、恵庭市ではすべての学校が100%と回答している。



Q14.『保健体育授業で特に大切にしていること（※複数回答可、上位3つまで）』について、恵庭市では、10項目ある内、「①体を動かす楽しさの実感」「④協力して課題解決すること」「⑥運動量の確保」を特に大切にしていると回答した割合が高く、④、⑥の回答の割合は全国全道平均を大きく上回っている。

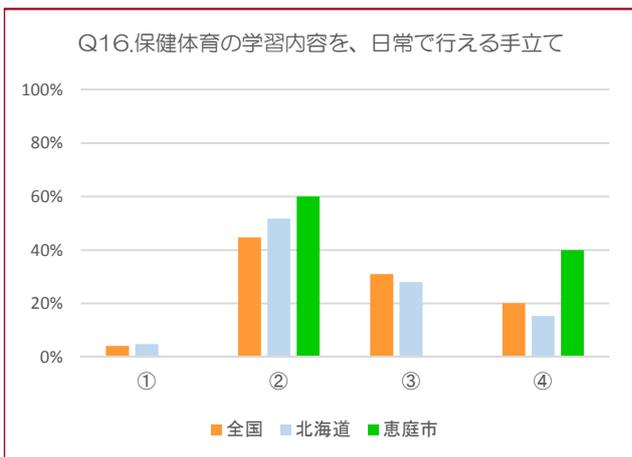
Q15.『保健体育授業で努力を要する生徒に対する取組（※複数回答可）』について、恵庭市では、12項目ある内、「①授業中、コツやポイントを重点的に教える」「④児童に合った運動課題の段階的な準備」「⑥友達同士で教え合いを促す」取組みを行っている割合が高く、①、⑥は全国全道平均と比較して、上回っている。



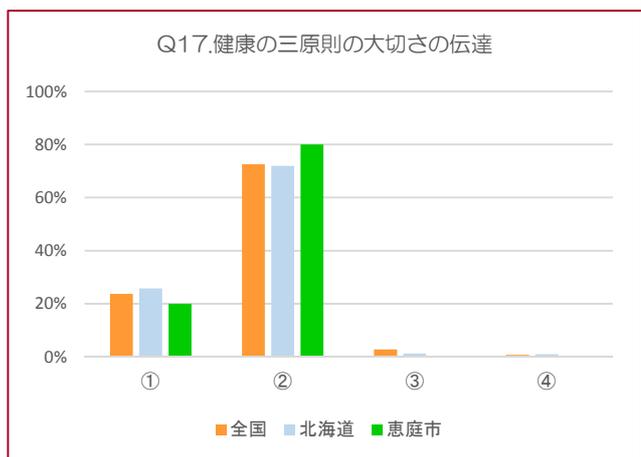
①授業中、コツやポイントを重点的に教える ④生徒に合った運動課題の段階的な準備
⑥友達同士で教え合いを促す

Q16.『体育の学習内容を、日常で行える手立て』について、「②領域や学年に応じて工夫」と回答する割合が高く、全国全道平均と比較して高い。

Q17.『健康の三原則の大切さの伝達』について、「②機会をとらえて適宜伝える」と回答する割合が高く、全国全道平均と比較して、若干上回っている。



①日常化を図る手立てを計画的に工夫 ②領域や学年に応じて工夫
③生徒に任せて見守る ④特に講じていない



①様々な場面で計画的に伝える ②機会をとらえて適宜伝える
③各担任や担当に任せる ④特に伝えていない

Q 18 外部人材について

Q18-1 保健体育授業への外部人材の活用人数

恵庭市では、1校を除きすべての学校が2～5人以上外部人材を活用している。
一方、全国全道では、5～7割の中学校が外部人材を活用していない。

Q18-2-1 外部人材の活用状況（学校全体での活用の有無）

恵庭市の中学校では、学校全体で「武道」「ダンス」「保健」の種目において外部人材を活用している。

Q18-2-2 外部人材の活用状況（第2学年での活用の有無）

前問同様、「武道」「ダンス」「保健」の種目において外部人材を活用している。

Q18-3 外部人材のプロフィール ※複数回答可

恵庭市では、「地域のスポーツ指導者」が多い。ほかに「教員経験者」「その他」の割合が多く、3割程度である。

Q 19 武道について

Q19-1 第1・2学年における武道種目 ※複数回答可

恵庭市では、柔道が2校、剣道が3校、相撲が1校行っている。
全国全道は柔道の実施がおよそ6割、剣道の実施がおよそ3割と多くの中学校では柔道を実施している。

Q19-2 第1・2学年における武道種目の選定理由 ※複数回答可

恵庭市では、多くの中学校が「指導できる教員がいるため」と回答しており、ほかに「特性・理念等が学校教育目標等の実現に寄与するため」「外部指導者の協力が得られるため」などと回答している。

Q 20 ダンスについて

Q20-1 第1・2学年におけるダンス種目 ※複数回答可

恵庭市では、現代的なリズムのダンスをすべての中学校で実施しており、全5校中1校が他にフォークダンスを実施している。

Q20-2 第1・2学年におけるダンス種目の選定理由 ※複数回答可

恵庭市では、「指導できる教員がいるため」「特性・理念等が学校教育目標等の実現に寄与するため」「外部指導者の協力が得られるため」と回答している。

Q21 学校全体の運動部活動の運営や指導の目標作成について

恵庭市では、1校を除きすべての学校が、「している」と回答している。

Q22 運動を含む複数の活動を行う部活動について

恵庭市では、「ある」と回答した中学校は、全5校中2校である。

Q23 運動部の第3学年が卒業まで活動できる・できないについて

恵庭市では、「できる」と回答した中学校が1校、「できる部もある」と回答した中学校が1校であった。

Q24 ニュースポーツ、レクリエーション的スポーツを行う部活動について

恵庭市では、すべての中学校が「ない」と回答している。

Q25 運動部活動における外部人材の活用人数について

恵庭市では、平成26年度の時点で、「1人」・「2人」と回答した中学校が1校ずつあり、平成27年度の時点では、「1人」と回答した中学校が1校、「2人」と回答した中学校が2校となった。

Q26 調査結果を踏まえた授業の工夫・改善

『調査結果を踏まえた授業の工夫・改善』について、「行った／行う予定」と回答した割合を合計すると100%となり、恵庭市内すべての中学校が、工夫・改善を行っている。

Q27.28 「調査結果資料CD」、「活用シート」の活用

恵庭市では、『調査結果資料CD』は全5校中4校が活用し、『活用シート』はすべての中学校が活用している。

Q29 調査結果を踏まえた授業の工夫・改善

調査報告書の事例校を参考し取組んだ恵庭市内の中学校は、全5校中3校である。

Q30 保健体育科が第2学年の担当教員以外も含めた、調査結果の情報共有

恵庭市では、すべての中学校で情報共有をしている。

Q31 調査結果の公開

調査結果の公開を行った恵庭市内の中学校は、全5校中2校である。

Q32 校庭の材質 ※複数回答可

全国全道では「土・砂」と回答する割合が高く、恵庭市内の中学校はすべて「土・砂」と回答している。

Q33 学校の体育施設 ※複数回答可

恵庭市では、7項目ある内、「校庭に直線50m走のコースがとれる」と回答した割合が高く、すべての中学校が「校庭に直線50m走のコースがとれる」と回答している。

Q34 これまで「新体カテスト」を実施した年数

恵庭市内の中学校全5校中1校のみ3年と回答し、残り4校は6年以上と回答している。

Q35 今年度の「新体カテスト」の実施時期

恵庭市内の中学校は4～6月に実施している。（全国では4～5月が多く、全道では4～6月に実施するところが多い）

Q36 「新体カテスト」を実施している学年 ※複数回答可

恵庭市内の中学校はすべての学年が実施している。

※「新体カテスト」…文部科学省が国民全体の体力・運動能力調査として、策定・実施している今回の調査とは異なる体カテスト